

平成21年度 全国学力・学習状況調査

宮城県検証改善委員会報告書

～ みやぎの子どもたちが確かな学力を身に付けるために ～

宮城県教育委員会

はじめに

各市町村教育委員会及び各学校等におかれましては、本県の児童生徒の学力向上に向けた取組に積極的に取り組まれ、不断の御努力をされていることに対し、心から敬意を表します。

さて、平成21年度全国学力・学習状況調査が昨年4月に実施されました。この調査の目的は、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく分析することにより、各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することであり、また学校における児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てるということです。

平成19年度の実施から3年目を迎えた本年度は、本県では、小学生は国語、算数とも全国平均を下回ったものの、中学生は数学Aを除いて全国平均を上回るなど、改善が図られてきていると受け止めております。各市町村教育委員会、各学校等における学力向上に向けた地道な取組が成果を表してきていると、確かな手応えを感じております。

しかしながら、まだ全国平均を下回っている教科があることを厳しく受け止め、今後とも鋭意努力していかなければならないと考えております。

県教育委員会では、このような調査結果を踏まえ、全国学力・学習状況調査結果から本県の児童生徒の学力向上に向けての結果分析と対応策等について協議・検討するため、本年度も宮城県検証改善委員会を設置して進めてきました。本年度は、国語、算数、数学で特に課題の見られた点について検討し、指導改善のポイントを示すとともに、学校、家庭、地域が一体となって取り組みたいことを提案するなど、今後の改善の方向性をまとめました。

本報告書が、各学校における授業改善に向けて積極的に活用されるととともに、市町村教育委員会や地域、家庭等でも効果的に活用されることを願っています。そして、学校、地域、家庭が一体となって一層の学力向上に取り組まれますよう期待しています。

平成22年3月

宮城県教育委員会教育長 小林 伸 一

目 次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

第1章 全国学力・学習状況調査の結果

1 全国学力・学習状況調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2 各教科の調査の結果について・・・・・・・・・・・・・・・・	3
3 児童生徒質問紙調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・	19
4 学校質問紙調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・	21
5 平均正答率の高い県との比較・・・・・・・・・・・・・・・・	23

第2章 児童生徒の学力向上に向けて

1 教員の教科指導力の向上に向けた取組・・・・・・・・	27
(1) 授業改善のポイント	
(2) 日常の授業で大切にしたいこと	
(3) 教科に関する調査結果に見られる国語，算数・数学の課題から	
(4) 研修の充実を図るために	
2 児童生徒の学習習慣の形成に向けた取組・・・・・・・・	44
3 教育環境基盤の充実に向けた取組・・・・・・・・	45

第3章 学力向上に向けた施策の概要

1 教員の教科指導力の向上に向けた施策・・・・・・・・	47
(1) 学力向上サポートプログラム事業	
(2) 学力向上成果普及マンパワー活用事業	
(3) 市町村教育委員会学力向上パワーアップ支援事業	
(4) 基礎学力ステップアップ支援事業（新規事業）	
2 児童生徒の学習習慣の形成に向けた施策・・・・・・・・	49
(1) 地域学習支援センター設置事業	
(2) みやぎ単元問題ライブラリー整備事業	
3 教育環境基盤の充実に向けた施策・・・・・・・・	50
(1) 学級編制弾力化事業	
(2) 新学習指導要領推進事業（新規事業）	
(3) 小・中学校外部人材活用事業（少人数指導）	

宮城県検証改善委員会について・・・・・・・・	51
------------------------	----

第 1 章

全国学力・学習状況調査の結果

第1章 全国学力・学習状況調査の結果

1 全国学力・学習状況調査の概要

(1) 調査の目的

- ① 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ③ 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

(2) 調査の対象学年

小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年
中学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

(3) 調査の内容

①教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 (国語A, 算数・数学A)	①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ②実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など
主として「活用」に関する問題 (国語B, 算数・数学B)	①知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容 ②様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容など

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査 (児童生徒質問紙調査)	小中とも 77問	学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する調査
学校に対する調査 (学校質問紙調査)	小学校: 108問 中学校: 105問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

(4) 実施日 平成21年4月21日(火)

(5) 調査を実施した公立学校数及び児童生徒数

①小学校調査

参加学校数	児童数
445校	20,871人

②中学校調査(後日実施校5校は含まない)

参加学校数	生徒数
215校	20,286人

(6) 教科に関する調査結果の全体の概要

- ① 20年度と比べ、小・中学校のほとんどの教科で全国の平均正答率が高くなっており（文部科学省見解）、本県も同様の傾向となっている。
- ② 小学生の結果について
- 「知識」に関するA問題について
 国語の平均正答率は67.4%で、全国平均を2.5ポイント下回っている。
 算数の平均正答率は77.5%で、全国平均を1.2ポイント下回っている。
国語・算数ともに全国平均を下回る結果となっている。
 - 「活用」に関するB問題について
 国語の平均正答率は49.8%で、全国平均を0.7ポイント下回っている。
 算数の平均正答率は54.0%で、全国平均を0.8ポイント下回っている。
国語・算数ともに全国平均を下回る結果となっている。
- ③ 中学生の結果について
- 「知識」に関するA問題について
 国語の平均正答率は78.1%で、全国平均を1.1ポイント上回っている。
 数学の平均正答率は62.1%で、全国平均を0.6ポイント下回っている。
国語は全国平均を上回り、数学は全国平均を下回る結果となっている。
 - 「活用」に関するB問題について
 国語の平均正答率は76.4%で、全国平均を1.9ポイント上回っている。
 数学の平均正答率は57.7%で、全国平均を0.1ポイント上回っている。
国語・数学ともに全国平均を上回る結果となっている。

宮城県と全国の平均正答率一覧表

			「知識」に関するA問題				「活用」に関するB問題			
			問題数	全国平均正答率	宮城県平均正答率	全国平均との比較	問題数	全国平均正答率	宮城県平均正答率	全国平均との比較
小学校	国語	H21	18	69.9	67.4	-2.5	10	50.5	49.8	-0.7
		H20	18	65.4	64.2	-1.2	12	50.5	49.2	-1.3
		H19	18	81.7	80.6	-1.1	10	62.0	61.0	-1.0
	算数	H21	18	78.7	77.5	-1.2	14	54.8	54.0	-0.8
		H20	19	72.2	71.3	-0.9	13	51.6	50.4	-1.2
		H19	19	82.1	81.1	-1.0	14	63.6	61.4	-2.2
中学校	国語	H21	33	77.0	78.1	+1.1	11	74.5	76.4	+1.9
		H20	34	73.6	73.8	+0.2	10	60.8	61.8	+1.0
		H19	37	81.6	80.8	-0.8	10	72.0	71.0	-1.0
	数学	H21	33	62.7	62.1	-0.6	15	56.9	57.7	+0.8
		H20	36	63.1	61.4	-1.7	15	49.2	49.1	-0.1
		H19	36	71.9	70.3	-1.6	17	60.6	59.4	-1.2

2 各教科の調査の結果について

(1) 小学校国語A問題

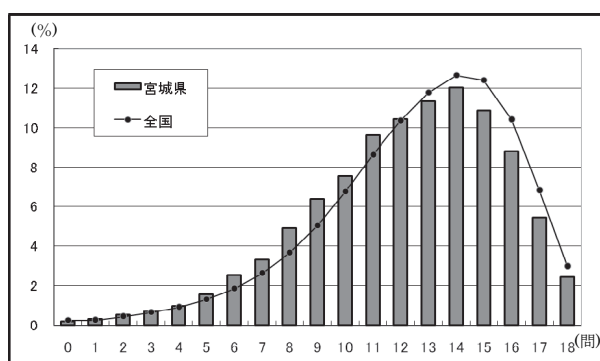
①結果の概要

- 平均正答率は67.4%であり、全国平均を2.5ポイント下回り、全国平均とのかい離は20年度よりも1.3ポイント大きくなっており、課題が見られる。
- 「漢字の読み・書き」や「ローマ字の読み・書き」「文字の形、大きさ、配列」など、言語事項に関する基礎的・基本的な知識・理解に課題が見られる。

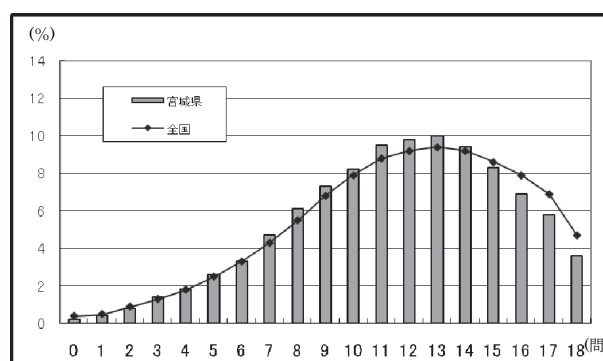
②正答数分布状況

- 正答数の分布状況は全国とほぼ同様の傾向が見られる。
- 今年度は、20年度と同様に、80%（14問）以上正答した児童の割合が全国と比べて低い状況が見られ、全国とのかい離はやや大きくなっている。

[平成21年度正答数分布グラフ]



[平成20年度正答数分布グラフ]



③領域別の平均正答率と上回った問題数・下回った問題数

- 「書くこと」の領域の平均正答率は84.9%であり、全国平均に近づいてきたものの、全ての領域では、全国平均を下回る結果となっており課題が見られる。特に「言語事項」は、全国平均よりも3.3ポイント下回った。

領域	話すこと・聞くこと			書くこと			読むこと			言語事項			合計		
	H21	H20	H19	H21	H20	H19	H21	H20	H19	H21	H20	H19	H21	H20	H19
宮城県平均正答率(%)	65.2	76.4	54.5	84.9	50.7	83.3	67.2	44.1	67.0	60.9	64.0	86.0	67.4	64.2	80.6
全国平均正答率(%)	68.0	76.1	56.6	85.4	53.3	85.3	68.7	44.5	67.3	64.2	65.2	86.8	69.9	65.4	81.7
全国との比較	-2.8	+0.3	-2.1	-0.5	-2.6	-2.0	-1.5	-0.4	-0.3	-3.3	-1.2	-0.8	-2.5	-1.2	-1.1
対象設問数	1	2	2	4	4	1	2	2	3	12	15	13	19	23	19
全国平均正答率を上回った問題数	0	1	1	2	0	0	0	1	1	1	4	4	3	6	6
全国平均正答率を下回った問題数	1	1	1	2	4	1	2	1	2	11	11	9	16	17	13

④設問別調査結果

○全国とのかい離が大きい設問等 (◇: かい離がプラス, ◆: かい離がマイナス, [] 内の記号は設問番号)

話すこと・聞くこと

- ◆ 話し合いにおける司会者の進め方の良いところを説明する問題の正答率は65.2%であり、全国平均を2.8ポイント下回った。[7]

書くこと

- ◇ 文章の内容に合わせて小見出しをとらえる問題の正答率は95.2%であり、全国平均を0.5ポイント上回った。〔4イ〕
- ◆ はがきの表書きに必要な事柄を正しい順序で書くことの問題の正答率は65.4%であり、全国平均を1.6ポイント下回った。〔3〕

読むこと

- ◆ 文学的な文章の表現の工夫をとらえることの問題の正答率は57.0%であり、全国平均を1.7ポイント下回った。〔5〕

言語事項

- ◆ 「漢字の読み・書き」「ローマ字の読み・書き」「書写」等のほぼ全ての設問で全国平均を下回り、特に「運ぶ」という漢字を書く問題の正答率は73.8%であり、全国平均を6.8ポイント下回った。〔1-(2)(3), 1二(1)(2)(3), 2_1 2 3, 5, 8, 9〕

設問番号	設問の概要	領域			問題形式			宮城県		全国		正答率の かい離	無解答率の かい離	
		話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)			無解答率(%)
1-(1)	漢字を読む(駅は混雑している)				○			○	95.4	2.2	95.2	2.2	0.2	0.0
1-(2)	漢字を読む(春から夏へ季節が移る)				○			○	88.6	2.3	91.1	1.7	-2.5	0.6
1-(3)	漢字を読む(めずらしい植物を採集する)				○			○	75.7	3.3	80.0	2.7	-4.3	0.6
1二(1)	漢字を書く(びょういんに行く)				○			○	72.5	7.7	76.1	5.9	-3.6	1.8
1二(2)	漢字を書く(人の意見にさんせいする)				○			○	74.7	10.9	78.3	8.7	-3.6	2.2
1二(3)	漢字を書く(重い石をはこぶ)				○			○	73.8	15.4	80.6	10.1	-6.8	5.3
2_1	ローマ字で書く(くすり)				○			○	66.6	14.0	69.4	11.8	-2.8	2.2
2_2	ローマ字で書く(たべもの)				○			○	41.8	22.8	45.5	19.2	-3.7	3.6
2_3	ローマ字を読む(happa)				○			○	48.8	34.1	51.9	29.3	-3.1	4.8
3	はがきの表書きに必要な事柄を選択する		○					○	65.4	0.2	67.0	0.3	-1.6	-0.1
4ア	実験報告文の小見出しとして適切なものを選択する		○					○	84.7	0.6	86.1	0.8	-1.4	-0.2
4イ			○					○	95.2	0.7	94.7	0.8	0.5	-0.1
4ウ			○					○	94.4	0.8	93.9	0.9	0.5	-0.1
5	文章の表現の工夫を説明したものとして適切なものを選択する				○	○		○	57.0	0.6	58.7	0.7	-1.7	-0.1
6	図鑑を読んで必要な内容をとらえる			○				○	77.5	5.6	78.7	4.9	-1.2	0.7
7	司会の進め方の良いところを説明する	○						○	65.2	17.3	68.0	15.2	-2.8	2.1
8	接続語を使って一文を二文に分けて書く				○			○	12.1	34.6	14.7	30.2	-2.6	4.4
9	毛筆の下書きについて書き直す内容を書く				○			○	24.2	37.8	29.0	33.3	-4.8	4.5

(2) 小学校国語B問題

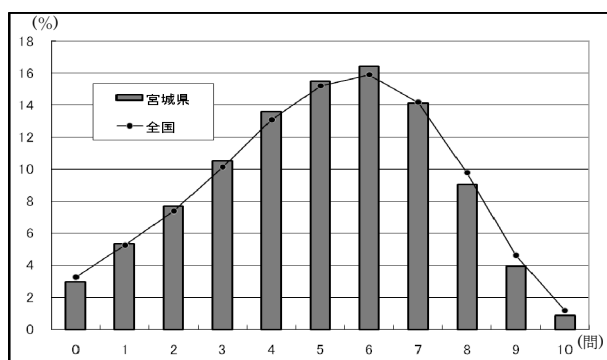
①結果の概要

- 平均正答率は49.8%であり、全国平均を下回っているが、全国平均とのかい離が20年度と比較して0.6ポイント小さくなり、やや改善が見られる。
- 「話すこと・聞くこと」の領域では、説明のための情報を整理することについて概ね身に付けているものの、「書くこと」「読むこと」の領域については、書く事柄を整理して自分の考えを書いたり、筆者の考えをとらえたりすることなどに課題が見られる。

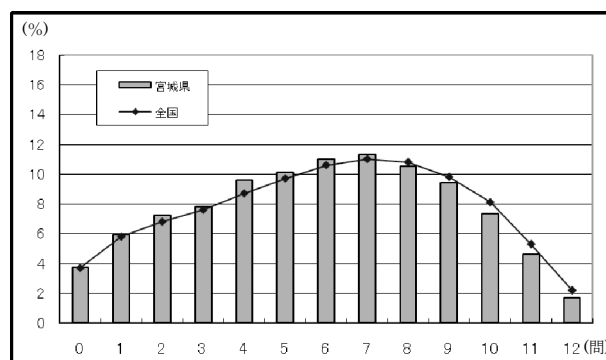
②正答数分布状況

- 正答数の分布状況は、全国の傾向と同様であり、40%～80%（4問～7問）の児童の割合が20年度（5問～8問）に比べ増加傾向にある。
- 80%（8問）以上正答した児童の割合は、20年度（9問以上）と同様全国に比べ低い。

[平成21年度正答数分布グラフ]



[平成20年度正答数分布グラフ]



③領域別の平均正答率と上回った問題数・下回った問題数

- 全ての領域において、全国平均を下回る結果となっている。中でも「書くこと」の領域は、全ての設問で全国平均を下回り、全国平均とのかい離も20年度と比べ大きくなっている。
- 「話すこと・聞くこと」と「読むこと」の2領域は、20年度と比べかい離が小さくなり、全国平均に近づいてきている。

領域	話すこと・聞くこと			書くこと			読むこと			言語事項			合計		
	H21	H20	H19	H21	H20	H19	H21	H20	H19	H21	H20	H19	H21	H20	H19
宮城県平均正答率(%)	61.1	72.7	67.6	12.7	48.0	60.5	55.6	46.6	56.5	58.5	79.4	49.8	49.2	61.0	
全国平均正答率(%)	61.3	73.0	70.9	14.5	49.1	61.7	56.5	48.3	57.7	59.7	77.0	50.5	50.5	62.0	
全国との比較	-0.2	-0.3	-3.3	-1.8	-1.1	-1.2	-0.9	-1.7	-1.2	-1.2	+2.4	-0.7	-1.3	-1.0	
対象設問数	5	2	2	2	8	4	3	8	7	2	1	12	18	14	
全国平均正答率を上回った問題数	2	1	0	0	2	1	0	0	1	0	0	2	3	2	
全国平均正答率を下回った問題数	3	1	2	2	6	3	2	8	6	2	1	9	15	12	

④設問別調査結果

○全国とのかい離が大きい設問等 (◇: かい離がプラス, ◆: かい離がマイナス, [] 内の記号は設問番号)

話すこと・聞くこと

- ◇ 自分の立場や意図を明確にして発表する問題の正答率は26.4%であり、全国平均を0.7ポイント上回った。〔2二〕
- ◇ 資料から必要な情報を取り出し整理する問題の正答率は86.9%であり、全国平均を0.8ポイント上回った。〔4一〕

- ◆ 話の組立てを工夫しながら図を使って説明する問題の正答率は55.8%と61.1%であり、全国平均を1.5ポイント、0.9ポイント下回った。〔4ニアイ〕

書くこと

- ◆ 報告文を書くために必要な事柄を整理する問題の正答率は9.9%であり、全国平均を1.5ポイント下回った。〔1一〕
- ◆ 調べて分かった結果と調べた理由を関係付けて書く問題の正答率は15.5%であり、全国平均を2.2ポイント下回った。〔1二〕

読むこと

- ◇ 筆者の表現の工夫に着目して読む問題の正答率は56.1%であり、全国平均と同じであった。〔3一〕
- ◆ 筆者の考えをとらえ筆者の考えに合わせて書き換える問題の正答率は62.4%と48.4%であり、全国平均を0.2ポイント、2.5ポイント下回った。〔3ニ(1)(2)〕

設問番号	設問の概要	領域				問題形式			宮城県		全国		正答率の かい離	無解答率の かい離
		話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)		
1一	報告文を読み、メモの中に調べた内容の1つめを書く		○				○		9.9	21.4	11.4	20.8	-1.5	0.6
1二	報告文のまとめとして、調べて分かったことを書く		○				○		15.5	13.2	17.7	12.6	-2.2	0.6
2一	話し合いの中で出された意見を二つの立場に分ける	○				○			75.4	2.9	75.5	3.0	-0.1	-0.1
2二	「そうじや整とんによく取り組んでいる」とする立場から自分の考えを発表する	○					○		26.4	11.6	25.7	11.7	0.7	-0.1
3一	説明文の冒頭部分を読んで、書き方の工夫として適切な内容を選択する			○		○			56.1	7.3	56.1	8.8	0.0	-1.5
3ニ(1)	筆者の考えを自分の言葉で書き換えたり要約したりして書く			○			○		62.4	11.2	62.6	11.7	-0.2	-0.5
3ニ(2)				○			○		48.4	16.4	50.9	16.4	-2.5	0.0
4一	作戦カードをもとに、ボールを渡す順番を整理する	○					○		86.9	6.3	86.1	6.9	0.8	-0.6
4ニア	作戦カードをもとに、チームの攻め方を説明する	○			○		○		55.8	13.4	57.3	13.4	-1.5	0.0
4ニイ		○			○		○		61.1	16.2	62.0	15.8	-0.9	0.4

(3) 小学校算数A問題

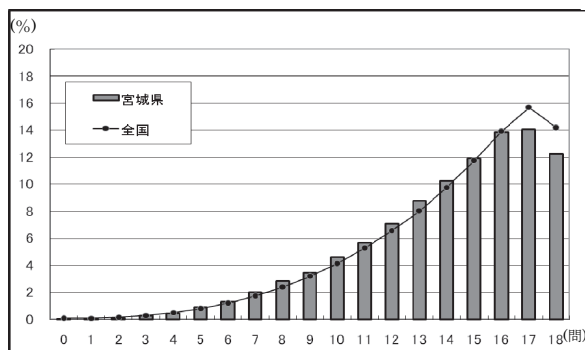
①結果の概要

- 平均正答率が77.5%であり、全国平均を1.2ポイント下回り、全国平均とのかい離は20年度よりも0.3ポイント大きくなっており、課題が見られる。
- 「数と計算」領域においては整数、小数、分数の基本的な四則計算は概ね身に付いているものの、偶数や概数の意味理解には課題が見られる。

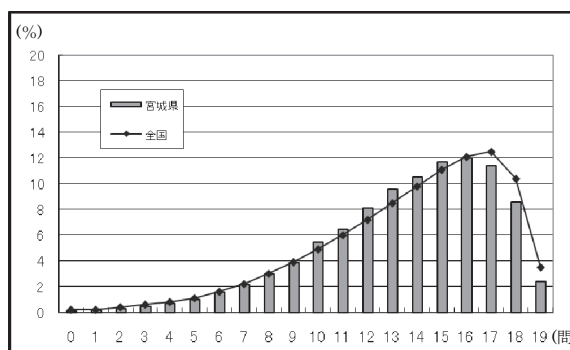
②正答数分布状況

- 正答数の分布状況は、全国の傾向と同様であるが、20年度と比べて正答率の高い児童の割合が多くなっている。
- 今年度は20年度と同様に90%（17問）以上正答した児童の割合が全国と比べて低い状況が見られ、全国とのかい離がやや大きくなっている。

[平成21年度正答数分布グラフ]



[平成20年度正答数分布グラフ]



③領域別の平均正答率と上回った問題数・下回った問題数

- 全ての領域の平均正答率は全国平均をやや下回る結果となっているものの、「図形」「数量関係」の領域では、全国平均とのかい離が20年度と比べるとやや小さくなっている。

領域	数と計算			量と測定			図形			数量関係			合計		
	H21	H20	H19	H21	H20	H19	H21	H20	H19	H21	H20	H19	H21	H20	H19
宮城県平均正答率(%)	81.2	76.2	79.6	77.4	56.1	85.1	81.1	71.6	86.3	63.0	69.8	74.0	77.5	71.3	81.1
全国平均正答率(%)	82.8	76.8	81.5	78.5	56.2	86.1	81.3	72.7	86.1	64.2	72.4	75.4	78.7	72.2	82.1
全国との比較	-1.6	-0.6	-1.9	-1.1	-0.1	-1.0	-0.2	-1.1	+0.2	-1.2	-2.6	-1.4	-1.2	-0.9	-1.0
対象設問数	9	10	11	3	3	3	3	3	2	3	3	4	18	19	20
全国平均正答率を上回った問題数	4	4	3	0	1	1	2	2	1	0	1	1	6	8	6
全国平均正答率を下回った問題数	5	6	8	3	2	2	1	1	1	2	2	3	11	11	14

④設問別調査結果

- 全国とのかい離が大きい設問等 (◇:かい離がプラス, ◆:かい離がマイナス, []内の記号は設問番号)

数と計算

- ◇ 整数の乗法、除法の計算問題の正答率は86.2%、96.0%であり、全国平均をいずれも0.6ポイント上回った。[1(2)(3)]
- ◆ 偶数や概数の意味理解の問題の正答率は71.4%、70.5%であり、全国平均をいずれも6ポイントと5.3ポイント下回った。[2(3)(4)]

量と測定

- ◆ 長さの感覚を身に付けているかをみる問題の正答率は88.3%であり、全国平均を1.5ポイント下回った。[3]

- ◆ 分度器の目盛りを読む問題の正答率は77.3%であり、全国平均を1.5ポイント下回った。〔4〕

図形

- ◇ 四角形の4つの角の大きさの和を求める問題の正答率は69.0%であり、正答率が全国平均を1.1ポイント上回った。〔5(1)〕
- ◆ 長方形や直角三角形の定義や性質の理解の問題の正答率は81.7%であり、全国平均を1.7ポイント下回った。〔5(2)〕

数量関係

- ◆ 資料を2つの観点から分類整理し、表を用いて表す問題の正答率は65.7%であり、全国平均を3.1ポイント下回った。〔8〕

設問番号	設問の概要	領域				問題形式			宮城県		全国		正答率の かい離	無解答率の かい離
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)		
1(1)	153+49 を計算する	○				○			95.5	0.1	95.1	0.1	0.4	0.0
1(2)	725×8 を計算する	○				○			86.2	0.3	85.6	0.5	0.6	-0.2
1(3)	204÷4 を計算する	○				○			96.0	0.7	95.4	1.0	0.6	-0.3
1(4)	48.1÷1.3 を計算する	○				○			80.6	3.5	80.4	3.9	0.2	-0.4
1(5)	7/6-2/6 を計算する	○				○			97.7	0.3	97.8	0.3	-0.1	0.0
1(6)	80-30÷5 を計算する				○	○			66.4	1.1	66.8	1.3	-0.4	-0.2
2(1)	数直線上に示された1万より大きい数を読み取る	○				○			61.9	0.7	64.1	0.6	-2.2	0.1
2(2)	100 を45個集めた数を書く	○				○			70.8	0.5	73.3	0.7	-2.5	-0.2
2(3)	74291 を四捨五入して、千の位までの概数で表したものを選ぶ	○				○			70.5	0.6	75.8	0.8	-5.3	-0.2
2(4)	整数の中から偶数を選ぶ	○				○			71.4	1.3	77.4	1.1	-6.0	0.2
3	千円札を長方形とみると、長い方の辺はどれくらいの長さか選ぶ		○			○			88.3	0.4	89.8	0.4	-1.5	0.0
4	90度より大きい角の大きさを測定する場面で、分度器の目盛りを読む		○			○			77.3	0.3	78.8	0.4	-1.5	-0.1
5(1)	四角形を1本の対角線で2つの三角形に分けたときの、四角形の4つの角の大きさの和を求める式を書く			○		○			69.0	10.0	67.9	10.3	1.1	-0.3
5(2)	長方形を1本の対角線で切ったときにできる図形の名前を選ぶ			○		○			81.7	1.2	83.4	1.4	-1.7	-0.2
5(3)	平行四辺形の2つの辺の長さが10cm, 8cm のとき、指示された辺の長さを答える			○		○			92.7	1.4	92.6	1.6	0.1	-0.2
6	方眼上の三角形の面積を求める式を書く		○			○			66.8	7.0	66.9	8.0	-0.1	-1.0
7	200人のうち80人が女子のとき、女子の人数の割合は全体の何%か選ぶ				○	○			56.9	1.2	56.9	1.5	0.0	-0.3
8	表に当てはまる資料の個数を答える				○	○			65.7	3.8	68.8	3.6	-3.1	0.2

(4) 小学校算数B問題

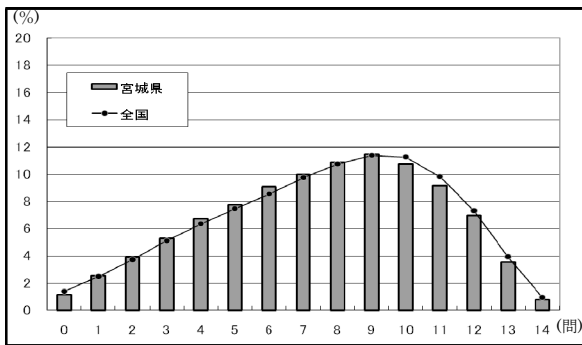
①結果の概要

- 平均正答率が54.0%であり、全国平均を0.8ポイント下回っているものの、全国平均とのかい離は20年度よりも0.4ポイント小さくなっており、やや改善が見られる。
- 「数量関係」のグラフの読み取りについては身に付いてきているが、グラフから読み取ったことを「数と計算」の知識を生かして概数で見積もることには課題が見られる。
- 「図形」では図形の性質を生かして長さや面積を考えたことや、「量と測定」では重さや面積の知識を活用して実験などの結果を考察することについて課題が見られる。

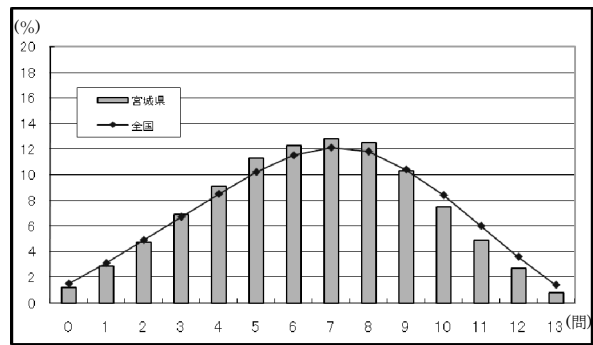
②正答数分布状況

- 正答数の分布状況は全国とほぼ同様の傾向が見られる。
- 20年度は、80%（10問）以上正答した児童の割合が低く、全国とのかい離が大きかったが、今年度は、80%（11問）以上正答した児童の割合が全国に比べてやや低いものの、全国とのかい離は小さくなっている。

[平成21年度正答数分布グラフ]



[平成20年度正答数分布グラフ]



③領域別の平均正答率と上回った問題数・下回った問題数

- 「数と計算」「量と測定」「図形」の領域の平均正答率は全国平均を下回る結果となっているものの、「数量関係」の領域では、全国平均をやや上回っている。
- 全国平均を上回った問題数は、「数量関係」の領域で20年度よりも増加している。

領域	数と計算			量と測定			図形			数量関係			合計		
	H21	H20	H19	H21	H20	H19	H21	H20	H19	H21	H20	H19	H21	H20	H19
宮城県平均正答率(%)	55.0	64.3	55.0	58.7	51.9	55.7	54.6	59.9	71.0	57.1	43.8	63.6	54.0	50.4	61.4
全国平均正答率(%)	55.8	65.2	58.9	59.9	53.3	58.0	56.4	61.2	72.5	56.8	44.9	65.5	54.8	51.6	63.6
全国との比較	-0.8	-0.9	-3.9	-1.2	-1.4	-2.3	-1.8	-1.3	-1.5	0.3	-1.1	-1.9	-0.8	-1.2	-2.2
対象設問数	6	3	2	6	3	3	4	4	3	4	7	9	20	17	17
全国平均正答率を上回った問題数	1	2	0	0	0	0	0	0	1	3	2	1	4	4	2
全国平均正答率を下回った問題数	5	1	2	6	3	3	4	4	2	1	5	8	16	13	15

④設問別調査結果

- 全国とのかい離が大きい設問等 (◇: かい離がプラス, ◆: かい離がマイナス, [] 内の記号は設問番号)

数と計算

- ◇ 買い物の場面で、情報を整理選択し、筋道を立てて考え、示された判断が正しい理由を記述する問題の正答率は35.4%であり、全国平均を1.5ポイント上回った。[3(3)]
- ◆ 「図形」の領域と関連して、図形を見だし、長さを求めるために必要な情報を選択し、求め方を式に表す問題の正答率は48.5%であり、全国平均を2.6ポイント下回った。[1(1)]

量と測定

- ◆ 球の重さを調べる実験で、実験結果を基に筋道を立てて考え、当てはまる重さを選択する問題の正答率は43.1%であり、全国平均を2.6ポイント下回った。〔2(2)〕

図形

- ◆ 円の半径の求め方について、示された解決方法を理解し、見方を変えた別の解決方法を考え、それを記述する問題の正答率は27.9%であり、全国平均を2.5ポイント下回った。〔1(3)〕

数量関係

- ◇ グラフから必要な数量を読み取る問題の正答率は82.9%であり、全国平均を0.9ポイント上回った。〔5(1)〕
- ◇ グラフの特徴を基に数量の変化をとらえる問題の正答率は73.8%であり、全国平均を1.0ポイント上回った。〔5(2)〕
- ◆ 「数と計算」の領域と関連して、棒グラフから必要な数量を読み取り、数量の差を概数で見積もる問題の正答率は53.6%であり、全国平均を1.2ポイント下回った。〔3(2)〕

設問番号	設問の概要	領域				問題形式			宮城県		全国		正答率の かい離	無解答率の かい離
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)		
1(1)	壁の高さを階段を使って調べるために必要な情報を選び求める式を書く	○		○			○		48.5	2.2	51.1	2.3	-2.6	-0.1
1(2)	示された高い場所の長さを直接測らなくても、別の場所の長さを測れば調べることができるわけとして正しい記述を選ぶ			○		○			63.4	1.7	65.1	2.2	-1.7	-0.5
1(3)	長方形の紙にかかれた6つの円の半径の求め方について、長方形の縦の長さを使った求め方を基に、横の長さを使った求め方を書く			○			○		27.9	6.5	30.4	5.8	-2.5	0.7
2(1)	上皿てんびんで消しゴムと分銅がつり合っていることを基に、消しゴムの重さを求める	○	○				○		89.9	0.7	90.2	0.8	-0.3	-0.1
2(2)	3つの実験を基に、黒の球の重さの範囲を書き、その範囲に当てはまる重さを選ぶ		○				○		43.1	6.4	45.7	6.3	-2.6	0.1
3(1)	目的の時刻までに着くバスの発車予定時刻を時刻表から選び、その時刻を書く		○				○		38.0	7.2	39.8	6.5	-1.8	0.7
3(2)	船の入港数を表した棒グラフを見て、2005年の船の入港数が、最も多い年と比べて約何隻減少したのか答える	○			○		○		53.6	6.7	54.8	6.2	-1.2	0.5
3(3)	2種類の品物を買うとき、与えられた条件では、ハンカチを買うともう1種類の品物が買えないわけを書く	○					○		35.4	10.0	33.9	9.2	1.5	0.8
4(1)	縦4cm、横5cmの長方形の板に縦2cm、横1cmの長方形のカードを敷き詰める図を2通りかき、必要なカードの枚数を書く		○	○			○		78.6	2.3	79.1	2.5	-0.5	-0.2
4(2)	縦5cm、横7cmの長方形の板に縦2cm、横1cmの長方形のカードを敷き詰められないと判断するための考えを書く	○	○				○		56.0	19.3	56.1	17.6	-0.1	1.7
4(3)	縦2cm、横1cmの長方形のカードを敷き詰められない長方形の板を考え、その辺の長さを書く	○	○				○		46.8	9.7	48.8	9.0	-2.0	0.7
5(1)	4月に集めたペットボトルの重さをグラフから読み取る				○		○		82.9	4.4	82.0	4.8	0.9	-0.4
5(2)	グラフを見て、集めた空き瓶の重さの変化についての正しい記述を選ぶ				○		○		73.8	4.9	72.8	5.3	1.0	-0.4
5(3)	4月と6月の全体の重さを基にしたペットボトルの重さの割合の大小関係をとらえ、判断のわけを書く				○		○		17.9	7.3	17.7	7.6	0.2	-0.3

(5) 中学校国語A問題

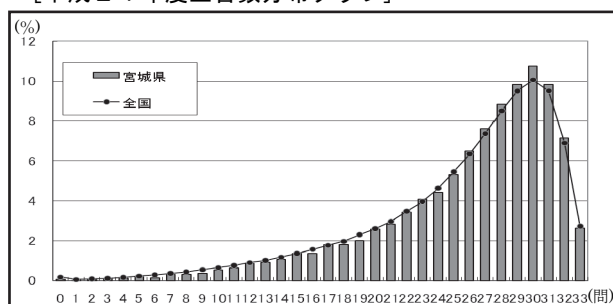
①結果の概要

- 平均正答率が78.1%であり、全国平均を1.1ポイント上回り、全国平均とのかい離が20年度と比べて0.9ポイント大きくなっており、改善が見られる。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項」の4領域すべてにおいて、全国平均を上回り、基礎的・基本的な内容に関する知識・技能について、概ね身に付いていると捉えられる。

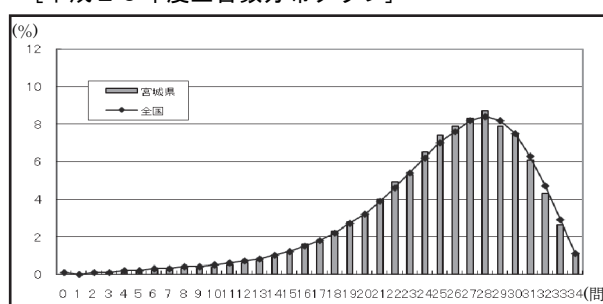
②正答数分布状況

- 今年度の正答数の分布状況は、全国と同様の傾向であり、正答率の高い生徒が増えてきている。
- 20年度は、80%（27問）以上正答した生徒の割合が、全国より、やや低い状況が見られたが、今年度は、80%（26問）以上正答した生徒の割合は全国に比べてやや高い状況が見られる。

[平成21年度正答数分布グラフ]



[平成20年度正答数分布グラフ]



③領域別の平均正答率と上回った問題数・下回った問題数

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項」の全ての領域において、全国平均を上回っている。
- 「書くこと」「読むこと」「言語事項」の領域において、全国平均を上回った問題数が20年度より増加している。

領域	話すこと・聞くこと			書くこと			読むこと			言語事項			合計		
	H21	H20	H19	H21	H20	H19	H21	H20	H19	H21	H20	H19	H21	H20	H19
宮城県平均正答率(%)	87.0	80.3	90.3	65.8	55.8	74.1	76.7	71.2	79.9	77.4	75.4	78.2	78.1	73.8	80.8
全国平均正答率(%)	86.8	80.1	90.1	64.6	55.2	73.4	75.7	71.0	80.6	76.0	75.2	80.3	77.0	73.6	81.6
全国との比較	+0.2	+0.2	+0.2	+1.2	+0.6	+0.7	+1.0	+0.2	-0.7	+1.4	+0.2	-2.1	+1.1	+0.2	-0.8
対象設問数	4	5	8	3	2	4	10	9	7	17	18	18	34	34	37
全国平均正答率を上回った問題数	3	4	3	3	2	3	8	6	1	13	11	5	27	23	12
全国平均正答率を下回った問題数	1	1	5	0	0	1	2	3	6	4	7	13	7	11	25

④設問別調査結果

- 全国とのかい離が大きい設問等 (◇: かい離がプラス, ◆: かい離がマイナス, [] 内の記号は設問番号)

話すこと・聞くこと	
◇	効果的なスピーチをするために話の展開の仕方を工夫する問題の正答率が88.7%であり、全国平均を0.6ポイント上回った。〔2二〕
◆	効果的なスピーチをするために話し方を工夫する問題の正答率は75.4%であり、全国平均を0.4ポイント下回った。〔2一〕
書くこと	
◇	主語に対応させた適切な述語の書き方の問題の正答率が51.8%であり、全国平均を2.0ポイント上回った。〔1一〕
読むこと	
◇	古文と現代語訳とを対応させて内容をとらえる問題の正答率が69.8%であり、全国平均を4.8ポイント上回った。〔8五2〕
◆	短歌の形式に従って意味のまとまりをつかむ問題の正答率は26.3%であり、全国平均を2.6ポイント下回った。〔7一〕

言語事項

- ◇ 同音異義語の理解についての問題の正答率が77.6%であり、全国平均を5.2ポイント上回った。〔8三カ〕
- ◆ 文脈に即して漢字を正しく書く問題については設問全て（3問）が全国平均を下回っている。最も書けなかった漢字は、「磁石」で、正答率が80.6%であり、全国平均を3.4ポイント下回った。〔8-1 8-2 8-3〕

設問番号	設問の概要	領域			問題形式			宮城県		全国		正答率の かい離	無解答率の かい離
		聞くこと 読むこと 書くこと	読むこと	言語事項	選択式	短答式	記述式	正答率 (%)	無解答率 (%)	正答率 (%)	無解答率 (%)		
1-1	主語に合わせて述語の部分を書き直す		○		○			51.8	5.0	49.8	5.6	2.0	-0.6
2-1	スピーチの工夫の効果として適切なものを選択する	○					○	75.4	0.2	75.8	0.4	-0.4	-0.2
2-2	スピーチの特徴の説明として適切なものを選択する	○					○	88.7	0.2	88.1	0.4	0.6	-0.2
3-1	物語の展開の順番どおりに出来事を並び替える			○			○	90.0	0.3	89.5	0.5	0.5	-0.2
3-2	僕とカムパネルラが知っていることの説明として適切なものを選択する			○			○	85.9	1.0	85.2	1.2	0.7	-0.2
3-3	先生の質問に答えなかったカムパネルラが僕のことをどう思っていると考えたかが書かれている部分を本文中から抜き出す			○			○	85.1	9.9	84.1	10.7	1.0	-0.8
4-1	先生の話から必要な情報を聞き取り、メモをとる	○					○	92.9	0.6	92.7	0.9	0.2	-0.3
4-2	足りない情報を得るための質問として適切なものを選択する	○					○	91.1	0.3	90.9	0.6	0.2	-0.3
5-1	提案するとき根拠にする意見として適切なものを選択する		○				○	76.5	0.3	75.2	0.6	1.3	-0.3
5-2	提案するときある意見を取り上げて書く理由として適切なものを選択する		○				○	69.1	0.6	68.7	0.9	0.4	-0.3
6-1	目次の特徴とそれを使ってできることの説明として適切なものを選択する			○			○	86.3	0.3	85.4	0.6	0.9	-0.3
6-2	調べたい事柄が書かれている章を選択する			○			○	81.9	0.3	81.2	0.6	0.7	-0.3
7-1	短歌について、言葉のつながりや意味の上から切れめを付けたものとして適切なものを選択する			○			○	26.3	0.4	28.9	0.8	-2.6	-0.4
7-2	短歌について書かれた文章の空欄に当てはまるものとして適切なものを選択する			○			○	85.8	0.4	83.6	0.9	2.2	-0.5
7-3	短歌の内容について適切なものを選択する			○			○	80.0	0.6	77.9	1.0	2.1	-0.4
8-1-1	漢字を書く（世界イサンを見学する）				○		○	72.3	8.9	75.2	8.2	-2.9	0.7
8-1-2	漢字を書く（ジシャクを使って方位を調べる）				○		○	80.6	7.6	84.0	6.3	-3.4	1.3
8-1-3	漢字を書く（燃料をオギナう）				○		○	51.7	21.7	53.7	22.6	-2.0	-0.9
8-2-1	漢字を読む（空気の抵抗がある）				○		○	98.7	0.9	98.2	1.4	0.5	-0.5
8-2-2	漢字を読む（ピアノで伴奏をする）				○		○	90.6	1.3	88.9	2.0	1.7	-0.7
8-2-3	漢字を読む（真実に迫る）				○		○	92.3	2.6	91.0	3.5	1.3	-0.9
8-3ア	適切な語句を選択する（急いでいるときは、靴をはくのももどかしい）				○		○	53.2	1.0	49.3	1.4	3.9	-0.4
8-3イ	適切な語句を選択する（鬼をおいはらうならわしは、今でも続いている）				○		○	73.0	0.6	71.0	0.9	2.0	-0.3
8-3ウ	適切な敬語を選択する（お客様、どうぞこの洋服をおめしになってください）				○		○	88.4	0.5	85.9	0.9	2.5	-0.4
8-3エ	適切な同音異義語を選択する（調査結果について、報道機関に対して説明する）				○		○	79.1	0.8	74.7	1.1	4.4	-0.3
8-3オ	適切な接続詞を選択する（たとえそうであっても）				○		○	93.2	0.8	92.2	1.2	1.0	-0.4
8-3カ	適切な同音異義語を選択する（来賓のシュクジは、特に印象に残っている）				○		○	77.6	1.4	72.4	1.8	5.2	-0.4
8-4	意味は変えずに、主語を変えて書き換える				○		○	82.4	2.2	82.6	2.9	-0.2	-0.7
8-5-1	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（むかひて）			○			○	75.6	2.3	75.9	3.6	-0.3	-1.3
8-5-2	「徒然草」の中の語句の訳を抜き出す（よしなしごと）			○			○	69.8	4.7	65.0	6.3	4.8	-1.6
8-6	先生の助言を生かして書き直したのを選択する				○		○	82.2	0.7	77.4	1.1	4.8	-0.4
8-7	国語辞典で調べたことをもとに、語句の意味を書く				○		○	67.7	15.6	66.7	16.7	1.0	-1.1
8-8	国語辞典の説明から分かることを選択する				○		○	81.3	1.1	79.6	1.6	1.7	-0.5

(6) 中学校国語B問題

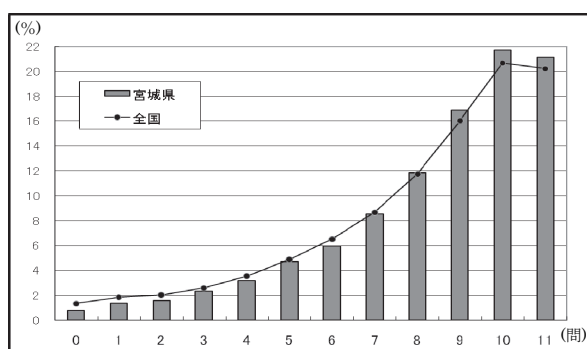
①結果の概要

- 平均正答率が76.4%であり、全国平均を1.9ポイント上回り、全国平均とのかい離が20年度と比べて0.9ポイント大きくなり、改善が見られる。
- 「読むこと」「書くこと」の2領域で、読み取るだけでなく、自分の考えなどを記述する問題での正答率が、全国平均よりも高い状況である。

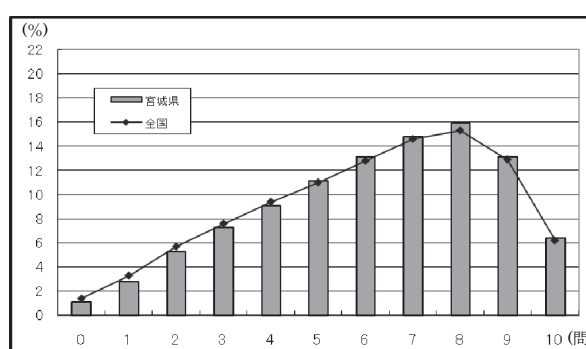
②正答数分布状況

- 正答数の分布状況は全国の傾向と同様であるが、20年度と比べて正答率の高い生徒の割合が多くなっている。
- 20年度は80%（8問）以上正答した生徒の割合が全国とほぼ同程度であったが、今年度は80%（9問）以上正答した生徒の割合が全国と比べて多くなっている。

[平成21年度正答数分布グラフ]



[平成20年度正答数分布グラフ]



③領域別の平均正答率と上回った問題数・下回った問題数

- 全ての領域において全国平均を上回り、特に「書くこと」の領域では全国平均を2.5ポイント上回っている。また、全ての設問で、20年度と同様に、全国平均を上回っている。

領域	話すこと・聞くこと			書くこと			読むこと			言語事項			合計		
	H21	H20	H19	H21	H20	H19	H21	H20	H19	H21	H20	H19	H21	H20	H19
宮城県平均正答率 (%)			81.8	75.0	48.1	63.4	76.4	61.8	69.8		63.1	67.4	76.4	61.8	71.0
全国平均正答率 (%)			81.3	72.5	46.7	64.4	74.5	60.8	70.6		60.5	68.5	74.5	60.8	72.0
全国との比較			+0.5	+2.5	+1.4	-1.0	+1.9	+1.0	-0.8		+2.6	-1.1	+1.9	+1.0	-1.0
対象設問数			1	5	4	3	11	10	9		1	1	16	15	14
全国平均正答率を上回った設問数			1	5	4	0	11	10	1		1	0	16	15	2
全国平均正答率を下回った設問数			0	0	0	3	0	0	8		0	1	0	0	12

④設問別調査結果

- 全国とのかい離が大きい設問等 (◇: かい離がプラス, ◆: かい離がマイナス, [] 内の記号は設問番号)

書くこと

- ◇ 学校生活に即した資料の中の工夫されている点を読み取り、自分の言葉で表現する問題の正答率は62.9%であり、全国平均を3.8ポイント上回った。〔1三ア〕

読むこと

◇ 資料の図を読み取って、文章のどの部分を補足しているかについて見つけ出し、文章中から抜き出す問題の正答率は65.8%であり、全国平均を1.8ポイント上回った。〔2三〕

設問番号	設問の概要	領域			問題形式			宮城県		全国		正答率の かい離	無解答率の かい離
		話すこと・ 書くこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)		
1-アイ	子ども図書館案内図を見て、特定の本を借りるために行くべき場所を選択し、その場所に行く理由を書く		○	○			○	81.9	0.4	79.6	0.9	2.3	-0.5
1二	子ども図書館案内図にみられる工夫として当てはまらないものを選択する			○	○			73.5	0.3	72.8	0.6	0.7	-0.3
1三ア	子ども図書館案内図の工夫を生かして、学校図書館の案内図の郷土資料コーナーの見出しを書く		○	○			○	62.9	5.5	59.1	7.1	3.8	-1.6
1三イ	子ども図書館案内図の工夫を生かして、学校図書館の案内図の受付カウンターの役割の説明文を書く		○	○			○	77.8	5.6	76.6	6.8	1.2	-1.2
2一	本文の第一段落の役割について述べたものとして適切なものを選択する			○			○	73.3	0.2	72.1	0.7	1.2	-0.5
2二	本文の内容を適切にとらえ、発光ダイオードの特徴を箇条書きで三つ以上書く		○	○			○	68.6	11.1	66.4	13.1	2.2	-2.0
2三	資料の図が、文章のどの部分を補足しているかについて、文章中から抜き出す			○			○	65.8	15.9	64.0	17.8	1.8	-1.9
3-A	表に当てはまる一行を詩の中から抜き出す			○			○	92.5	3.1	91.4	4.6	1.1	-1.5
3-B				○			○	92.2	3.2	90.6	4.6	1.6	-1.4
3二	ひとまとまりのものとしてとらえた複数の連の内容について適切なものを選択する			○			○	67.4	0.5	65.7	1.2	1.7	-0.7
3三	詩と組み合わせる写真を一枚選び、その写真と組み合わせる理由を詩と写真を関連付けて書く		○	○			○	83.9	3.4	80.8	4.3	3.1	-0.9

(7) 中学校数学A問題

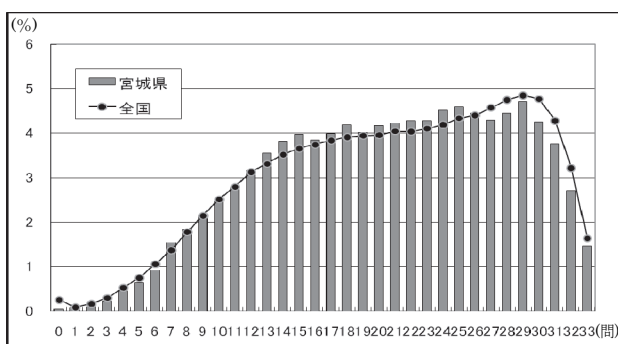
①結果の概要

- 平均正答率が62.1%であり、全国平均を0.6ポイント下回っているものの、全国平均とのかい離は20年度よりも1.1ポイント小さくなっており、やや改善が見られる。
- 「図形」についての基礎的・基本的な知識・技能は概ね身に付いてきているものの、「数と式」のやや複雑な計算処理や、「数量関係」の関数の事象または表から対応の特徴をとらえ式やグラフに表すことについては課題がある。

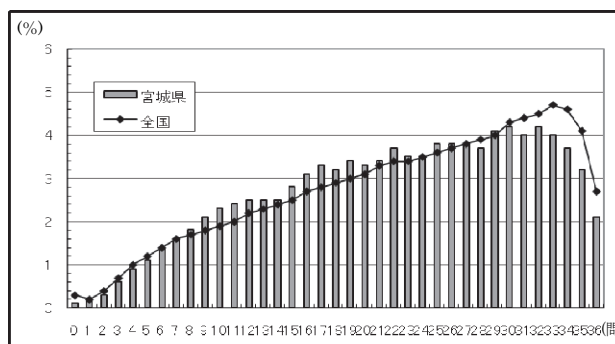
②正答数分布状況

- 20年度は、80%（29問）以上正答した生徒の割合が低く、全国とのかい離が大きかったが、今年度は、80%（26問）以上正答した生徒の割合が全国に比べてやや低いものの、全国とのかい離は小さくなっている。

[平成21年度正答数分布グラフ]



[平成20年度正答数分布グラフ]



③領域別の平均正答率と上回った問題数・下回った問題数

- 「図形」の領域の平均正答率は全国平均をやや上回る結果となっているものの、「数と式」と「数量関係」の領域では、全国平均を下回っている。
- 全国平均を上回った問題数は、「数と式」と「図形」の領域で20年度よりも増加し、全体としても増加している。

領域	数と式			図形			数量関係			合計		
	H21	H20	H19	H21	H20	H19	H21	H20	H19	H21	H20	H19
宮城県平均正答率(%)	66.0	65.4	72.4	64.8	61.6	73.7	55.7	57.3	64.4	62.1	61.4	70.3
全国平均正答率(%)	67.3	68.0	74.4	64.6	62.7	75.5	56.2	58.6	65.9	62.7	63.1	71.9
全国との比較	-1.3	-2.6	-2.0	+0.2	-1.1	-1.8	-0.5	-1.3	-1.5	-0.6	-1.7	-1.6
対象設問数	11	12	12	11	12	12	11	12	12	33	36	36
全国平均正答率を上回った問題数	4	0	1	5	4	2	5	5	3	14	9	6
全国平均正答率を下回った問題数	7	12	11	6	8	10	6	7	9	19	27	30

④設問別調査結果

- 全国とのかい離が大きい設問等 (◇: かい離がプラス, ◆: かい離がマイナス, [] 内の記号は設問番号)

数と式

- ◇ 比の問題の正答率は90.5%であり、全国平均を1.7ポイント上回った。[1(1)]
- ◆ 等式を目的に応じて変形する問題の正答率は38.3%であり、全国平均を6.2ポイント下回った。[2(4)]

図形

- ◇ 2つの三角形が合同であることを判断する際に必要な辺や角の相当関係を指摘する問題の正答率は86.7%であり、全国平均を1.5ポイント上回った。[7(1)]
- ◆ 作図と線分の垂直二等分線についての問題の正答率は43.3%であり、全国平均を1.1ポイント下回った。[4(2)]

数量関係

- ◇ 具体的な事象から、 x と y の関係を $y=ax+b$ の式で表す問題の正答率は 57.9% であり、全国平均を 2.3 ポイント上回った。[11(2)]
- ◆ 2つの数量の反比例の関係を式に表す問題の正答率は 37.9% であり、全国平均を 3.2 ポイント下回った。[10(2)]

設問番号	設問の概要	領域			問題形式			宮城県		全国		正答率の かい離	無解答率の かい離
		数と式	図形	数量関係	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)		
1(1)	15:9=5:□	○				○		90.5	1.9	88.8	2.7	1.7	-0.8
1(2)	(-32)と同じ計算を表しているものを選ぶ	○			○			73.4	0.1	75.7	0.4	-2.3	-0.3
1(3)	2×(5-8)を計算する	○				○		90.0	1.0	89.5	1.3	0.5	-0.3
2(1)	3x×(-4xy)を計算する	○				○		87.3	2.5	91.0	2.4	-3.7	0.1
2(2)	nが負の整数のとき、最も大きな数を選ぶ	○			○			65.1	0.2	66.3	0.5	-1.2	-0.3
2(3)	連続する3つの自然数において、文字nが表すものを選ぶ	○			○			57.0	0.6	55.5	1.0	1.5	-0.4
2(4)	等式 S=1/2ah を、aについて解く	○				○		38.3	19.3	44.5	17.7	-6.2	1.6
3(1)	一元一次方程式を解くとき、等式の性質を選ぶ	○			○			66.3	0.6	68.3	1.0	-2.0	-0.4
3(2)	3/4x=1/4x-7を解く	○				○		49.6	15.9	52.3	15.0	-2.7	0.9
3(3)	一元一次方程式をつくるために、着目する数量を答える	○				○		36.0	17.1	34.9	18.5	1.1	-1.4
3(4)	連立方程式を解く	○				○		72.1	9.9	72.8	10.6	-0.7	-0.7
4(1)	平行四辺形が線対称か点对称か選ぶ		○		○			55.0	0.3	52.8	0.7	2.2	-0.4
4(2)	折り目の線について、正しい作図を選ぶ		○		○			43.3	0.7	44.4	1.1	-1.1	-0.4
5(1)	立方体の展開図において、与えられた面に平行な面を選ぶ		○		○			96.3	0.2	95.4	0.6	0.9	-0.4
5(2)	直角三角形の一边を軸として回転させてできる立体を選ぶ		○		○			86.7	0.2	87.2	0.6	-0.5	-0.4
5(3)	円柱の展開図において、円の周の長さと同様形の辺の長さの関係について正しいものを選ぶ		○		○			82.3	0.4	82.6	0.8	-0.3	-0.4
5(4)	中心角 60° の扇形の面積について正しいものを選ぶ		○		○			55.9	0.4	56.4	0.9	-0.5	-0.5
6(1)	同位角の位置にあるものを選ぶ		○		○			41.3	0.4	42.4	0.8	-1.1	-0.4
6(2)	多角形の外角の和について正しいものを選ぶ		○		○			66.3	0.6	66.1	1.1	0.2	-0.5
7(1)	三角形の合同の証明に必要な辺や角を書く		○			○		86.7	3.5	85.2	4.5	1.5	-1.0
7(2)	底角が等しいことを記号を用いて表す		○			○		70.7	14.5	69.5	15.5	1.2	-1.0
8	三角形の内角の和が 180° であることの証明について正しいものを選ぶ		○		○			28.1	0.7	28.9	1.2	-0.8	-0.5
9(1)	y=3xについて、正しい記述を選ぶ			○	○			51.7	1.4	53.7	1.8	-2.0	-0.4
9(2)	(2, 3)の位置を座標平面上に示す			○		○		74.3	2.6	77.1	3.5	-2.8	-0.9
9(3)	比例の関係を表した表を選ぶ			○	○			70.9	0.6	71.4	1.1	-0.5	-0.5
10(1)	反比例を表した事象を選ぶ			○	○			38.2	1.2	40.2	1.8	-2.0	-0.6
10(2)	反比例の表から式を求める			○		○		37.9	22.1	41.1	21.2	-3.2	0.9
11(1)	傾きと切片の値から、それを表すグラフを選ぶ			○	○			62.7	0.8	60.7	1.3	2.0	-0.5
11(2)	一次関数の事象を式で表す			○		○		57.9	16.8	55.6	18.4	2.3	-1.6
11(3)	一次関数を表すメモの一部から、それを表す式を選ぶ			○	○			53.7	1.4	52.3	1.9	1.4	-0.5
12	2x+y=6の解を座標とする点の集合がどのようなになるか選ぶ			○	○			36.8	1.5	35.9	2.0	0.9	-0.5
13(1)	2種類の画びょうのどちらが上向きになりやすいか、実験結果を比べ、正しいものを選ぶ			○	○			73.8	1.2	73.2	1.6	0.6	-0.4
13(2)	大小2つのさいころを同時に投げるとき、和が7になる確率を求める			○		○		54.9	13.7	57.1	14.3	-2.2	-0.6

(8) 中学校数学B問題

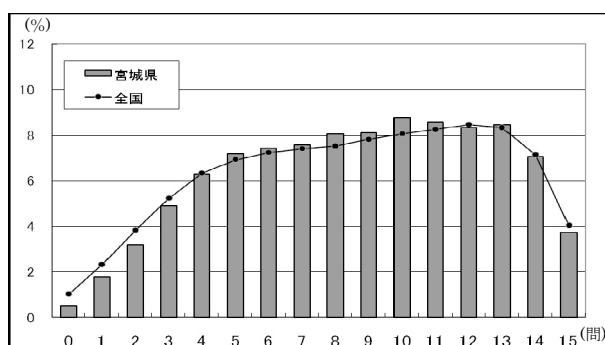
①結果の概要

- 平均正答率が57.7%であり、全国平均を0.8ポイント上回っており、全国平均を下回った20年度に比べ、改善が見られる。
- 「図形」において方針に基づいて証明したり振り返って考えたりすることや、「数量関係」において与えられた情報を分類整理することについては身に付いてきているものの、「数量関係」において不確定な事象を実験で確かめることについては課題がある。

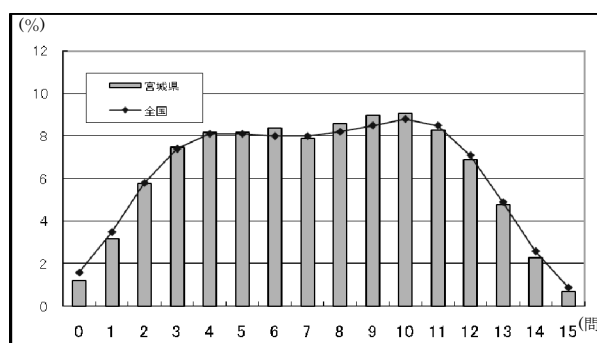
②正答数分布状況

- 正答数の分布状況は全国と同様の傾向が見られる。
- 今年度は、20年度よりも、80%（12問）以上正答した生徒の割合が高くなっている。

[平成21年度正答数分布グラフ]



[平成20年度正答数分布グラフ]



③領域別の平均正答率と上回った問題数・下回った問題数

- すべての領域の平均正答率が、全国平均を上回る結果となっている。
- 全国平均を上回った問題数は、「数と式」と「図形」の領域で20年度よりも増加し、全体としても増加している。

領域	数と式			図形			数量関係			合計		
	H21	H20	H19	H21	H20	H19	H21	H20	H19	H21	H20	H19
宮城県平均正答率(%)	61.6	53.8	45.5	58.8	59.2	54.0	54.7	44.2	67.0	57.7	49.1	59.4
全国平均正答率(%)	61.4	54.2	48.2	57.5	57.6	53.1	54.1	44.7	67.9	56.9	49.2	60.6
全国との比較	+0.2	-0.4	-2.7	+1.3	+1.6	-0.9	+0.6	-0.5	-0.9	+0.8	-0.1	-1.2
対象設問数	3	3	5	6	3	2	6	9	10	15	15	17
全国平均正答率を上回った問題数	2	1	0	5	3	2	4	5	6	11	9	8
全国平均正答率を下回った問題数	1	2	5	1	0	0	2	4	4	4	6	9

④設問別調査結果

- 全国とのかい離が大きい設問等 (◇: かい離がプラス, ◆: かい離がマイナス, [] 内の記号は設問番号)

数と式

- ◇ 規則に従って自然数を並べる場面において、考察の対象を明確にとらえる問題の正答率は86.7%であり、全国平均を1.1ポイント上回った。[2(1)]
- ◆ 説明を振り返って考え、式から読み取れる性質を選ぶ問題の正答率は57.3%であり、全国平均を0.6ポイント下回った。[2(3)]

図形

- ◇ 証明を振り返って考え、証明で導かれたこと以外にさらに分かることを選ぶ問題の正答率は66.6%であり、全国平均を3.3ポイント上回った。[4(2)]
- ◆ 証明の方針を立て、証明に必要な条件を選ぶ問題の正答率は55.1%であり、全国平均を0.2ポイント下回った。[4(3)]

数量関係

- ◇ 与えられた情報を分類整理して確率を求める問題の正答率は82.7%であり、全国平均を3.0ポイント上回った。〔5(1)〕
- ◆ 不確定な事象についての予想を実験で確かめるための方法を考える問題の正答率は、45.5%であり、全国平均を2.0ポイント下回った。〔5(3)〕

設問番号	設問の概要	領域			問題形式			宮城県		全国		正答の かい離	無解 率の かい離
		数と式	図形	数量関係	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)		
1(1)	「紋切り遊び」で1回折りでできる模様として、正しいものを選ぶ		○		○			87.1	0.1	85.3	0.4	1.8	-0.3
1(2)	「紋切り遊び」のできる模様だけにみられる図形の性質を説明する		○				○	46.4	1.8	46.2	2.3	0.2	-0.5
1(3)	「紋切り遊び」で3回折りでできる模様として、正しいものを選ぶ		○		○			55.0	0.4	53.7	0.9	1.3	-0.5
2(1)	1段目の連続する3つの自然数が21, 22, 23のとき、3段目に入る数を求める	○					○	86.7	3.5	85.6	4.9	1.1	-1.4
2(2)	1段目に連続する3つの自然数を入れたとき、3段目の数が4の倍数になることを説明する	○					○	40.8	17.0	40.6	17.8	0.2	-0.8
2(3)	2段目の2つの数 $2n+1$, $2n+3$ について、式から読み取れる性質を選ぶ	○			○			57.3	1.1	57.9	1.5	-0.6	-0.4
3(1)	白熱電球を1000時間使用したときの総費用を求める			○			○	61.6	5.5	60.5	7.1	1.1	-1.6
3(2)	蛍光灯の使用時間と総費用の関係を表すグラフ上にある点のy座標が表すものとして正しいものを選ぶ			○	○			62.6	0.6	61.7	1.2	0.9	-0.6
3(3)	蛍光灯と白熱電球の総費用について、2つの総費用が等しくなるおよその時間を求める方法を説明する			○			○	19.0	48.5	19.1	49.7	-0.1	-1.2
4(1)	2つの線分が平行になることを、三角形の合同を利用して証明する		○				○	42.9	16.8	41.0	21.2	1.9	-4.4
4(2)	証明で用いた三角形の合同を根拠として、証明したことと仮定以外に分かることを選ぶ		○		○			66.6	0.9	63.3	1.5	3.3	-0.6
4(3)	2つの線分が平行になることを証明する際に、平行四辺形に着目し、平行四辺形になるための条件を選ぶ		○				○	55.1	0.7	55.3	1.3	-0.2	-0.6
5(1)	「箱を変更しない」と決めてゲームを行う場合、3つの箱から1つの箱を選ぶとき、それが当たりの箱である確率を求める			○			○	82.7	7.7	79.7	10.3	3.0	-2.6
5(2)	「箱を変更する」と決めてゲームを行う場合、最初に選んだ箱がはずれだとすると、箱を変更すれば必ず当たる理由を説明する			○			○	56.8	20.4	56.2	23.1	0.6	-2.7
5(3)	「箱を変更する」と決めてゲームを行う方が当たりやすいという予想を確かめる実験方法として、最も適切なものを選ぶ			○	○			45.5	1.0	47.5	1.7	-2.0	-0.7

3 児童生徒質問紙調査結果

※表の（ ）内は全国との比較

(1) 結果の概要

- 宮城県の小・中学生は、早寝・早起き・朝ごはんや規則正しく生活することなど、基本的な生活習慣に関する質問に対しては、全国に比べて肯定的な回答をしているものが多いものの、長時間テレビを見たりテレビゲームをしたりする子どもの割合は、全国値よりも高い。
- 小・中学生ともに、家庭で予習・復習をしている割合は全国値より高いが、家庭における学習時間は1時間以上で見ると全国値よりも低い。

(2) 学習に対する関心・意欲・態度

- 授業の内容がよく分かるかという質問に対し、小学生では国語、算数ともに8割を超える児童が分かるかと答えており、全国値より高い割合となっている。一方、中学生では、国語に関しては分かる生徒が7割を超え、全国値より高いが、数学に関しては6割程度で、全国値より低い。
- 中学生では、自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるよう気をつけて書いているかなど、国語学習への取組を問う質問に対して、肯定的に答えている生徒の割合が全国値より高い。
- 算数・数学の問題が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える小・中学生の割合は20年度より増加し、全国値より高い。また、数学の言葉や式で訳や求め方を書く問題に最後まで書く努力をしたと答えた生徒の割合も全国値より高い。

	質問事項	小学校 (%)			中学校 (%)		
		H21	H20	H19	H21	H20	H19
1	国語の授業の内容はよく分かりますか	80.1 (+0.1)	77.6 (-0.4)	78.7 (+0.7)	70.1 (+1.3)	69.6 (+2.8)	67.5 (+2.1)
2	算数・数学の授業の内容はよく分かりますか	80.2 (+1.0)	79.2 (+0.8)	77.9 (+0.8)	62.4 (-2.5)	64.5 (-1.0)	61.5 (-2.1)
3	国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか。	66.7 (+0.5)	67.2 (+0.1)		58.6 (+3.5)	61.4 (+5.9)	
4	国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめごと内容に理解しながら読んでいますか	70.6 (-0.2)	71.7 (-0.2)		63.3 (+2.6)	65.6 (+4.1)	
5	算数・数学の問題が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。	77.6 (+0.8)	76.2 (+0.2)	75.0 (+0.3)	64.9 (+0.1)	64.7 (+1.1)	63.6 (+0.6)
6	言葉や式で訳や求め方を書く問題に、どのように解答しましたか（最後まで書く努力をした）	66.4 (-1.6)	65.9 (-1.1)		48.4 (+0.4)	42.2 (-0.5)	

(3) 基本的な生活習慣、家庭でのコミュニケーション

- 朝食を毎日食べる小・中学生は、20年度と同様の高い割合であり、全国値よりも高い。
- 学校での出来事を話したり、手伝いをしたりなどの家庭でのコミュニケーションについては、小・中学生ともにその割合が増加しており、全国値よりも高い。また、地域行事への参加の割合も高く、地域とのコミュニケーションも大切にしている。

	質問事項	小学校 (%)			中学校 (%)		
		H21	H20	H19	H21	H20	H19
1	普段(月～金曜日)、何時ごろに寝ますか (小：午後10時前 中：午後11時前)	51.1 (+7.8)	48.4 (+7.0)	49.4 (+7.3)	34.3 (+2.5)	32.4 (+3.0)	33.8 (+4.0)
2	普段(月～金曜日)、何時ごろに起きますか (午前6時30分より前)	39.8 (+3.5)	38.0 (+2.5)	37.9 (+3.5)	29.9 (-3.4)	29.2 (-3.5)	29.2 (-2.5)
3	朝食を毎日食べていますか	96.6 (+0.6)	96.3 (+0.9)	96.2 (+1.0)	94.0 (+1.6)	93.6 (+1.7)	93.3 (+1.7)
4	家の人と学校での出来事について話をしていますか	71.0 (+0.1)	70.9 (+1.7)	70.0 (+1.6)	61.1 (+1.3)	60.0 (+2.1)	60.0 (+2.2)
5	家の手伝いをしていますか	82.0 (+3.5)	81.0 (+3.5)	81.1 (+2.7)	68.3 (+5.3)	65.9 (+5.3)	67.9 (+4.6)
6	今住んでいる地域の行事に参加していますか	73.0 (+10.6)	71.6 (+11.7)	72.6 (+10.6)	40.9 (+3.1)	39.8 (+2.8)	39.7 (+2.2)

(4) 学習時間等

- 家庭で、自分で計画を立てて、予習・復習をしている小・中学生は、20年度よりも増加し、全国値よりも高い。
- 家庭で1時間以上学習すると答えた児童生徒の割合は、小学生では20年度より増加したが、全国値より低く、中学生では20年度より減少し全国値より低く、その差が大きくなっている。
- テレビやビデオ・DVDを3時間以上見たり、聞いたりする小・中学生の割合は、20年度よりわずかに減少したが、依然として全国値よりも高い。
- テレビゲームで3時間以上遊んでいる児童生徒も全国値をやや上回る。
- 携帯電話で通話やメールを毎日もしくは時々していると答えた児童生徒の割合は全国値よりは低いが、小学生で2割、中学生では5割を超えている。
- 学習塾等に通っている児童生徒の割合は全国値より低いが、小学生で4割、中学生では5割を超えている。

	質問事項	小学校 (%)			中学校 (%)			
		H21	H20	H19	H21	H20	H19	
1	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	55.5 (+0.8)	51.5 (-0.5)		40.1 (+2.2)	35.8 (+1.6)		
2	家で、学校の授業の予習をしていますか	42.6 (+5.1)	39.1 (+3.7)	36.6 (+3.7)	42.1 (+12.6)	41.0 (+12.6)	39.3 (+9.8)	
3	家で学校の授業の復習をしていますか	54.9 (+8.9)	50.8 (+7.4)	45.8 (+5.7)	49.7 (+9.2)	48.4 (+8.8)	45.8 (+6.6)	
4	学校の授業時間以外に、平日どれくらい勉強しますか(塾を含む)	30分以上	86.1 (+2.5)	83.5 (+1.1)	83.5 (-0.4)	81.7 (-0.2)	81.4 (-0.7)	78.6 (-2.6)
		1時間以上	56.9 (-0.3)	52.9 (-3.2)	53.8 (-4.1)	62.2 (-3.1)	63.1 (-2.3)	59.9 (-5.1)
		2時間以上	19.7 (-6.0)	18.8 (-6.7)	18.3 (-7.2)	29.1 (-6.6)	29.8 (-5.9)	27.4 (-8.0)
5	土曜日や日曜日など休みの日にどれくらい勉強しますか(小:2時間以上,中:3時間以上)	17.9 (-4.9)	16.3 (-6.4)	15.4 (-7.6)	13.5 (-1.9)	13.6 (-1.5)	11.8 (-3.1)	
6	普段1日当たり、どれくらいの時間テレビやビデオ・DVDを見ますか(3時間以上)	51.1 (+5.4)	51.7 (+5.6)	38.0 (+3.7)	40.4 (+2.4)	43.0 (+3.4)	35.9 (+2.8)	
7	普段1日当たり、どれくらいの時間テレビゲームをしますか(3時間以上)	13.0 (+1.4)	14.0 (+2.1)	9.8 (+0.9)	10.5 (+0.1)	10.4 (-0.1)	10.5 (-0.2)	
8	携帯電話で通話やメールをしていますか(毎日,時々)	20.5 (-3.2)	21.0 (-4.3)	17.5 (-4.8)	50.9 (-3.7)	55.4 (-1.7)	53.1 (-1.9)	
9	学習塾(家庭教師を含む)で勉強をしていますか	40.6 (-6.8)	41.2 (-7.0)	37.3 (-7.4)	56.2 (-6.8)	57.8 (-5.8)	52.6 (-6.9)	

(5) 自尊意識・規範意識

- 自己肯定感や達成感を感じたことがある、将来に夢や目標を持っていると答えた割合は、小学生は全国値よりも低いが増加傾向にあり、中学生はわずかであるが全国値より高い。
- 規範意識に関する質問に対し、肯定的な解答をした児童生徒の割合はほぼ全国と同様である。

	質問事項	小学校 (%)			中学校 (%)		
		H21	H20	H19	H21	H20	H19
1	自分には、よいところがあると思う	72.9 (-1.7)	71.4 (-2.0)	68.6 (-2.9)	61.6 (+0.4)	61.8 (+1.0)	59.8 (-0.7)
2	ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがありますか	93.8 (0.0)	93.2 (-0.3)	93.2 (+0.1)	92.9 (+1.0)	92.9 (+1.0)	92.4 (+0.4)
3	将来の夢や目標を持っていますか	85.6 (-0.7)	84.0 (-0.7)	83.6 (-0.1)	71.3 (+0.3)	72.0 (+1.3)	72.2 (+1.5)
4	学校のきまりを守っていますか	87.6 (-0.9)	85.7 (-0.6)	85.2 (-1.0)	89.3 (+0.7)	88.0 (+0.6)	86.0 (+0.3)
5	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	95.1 (+0.2)	95.0 (+0.3)	94.7 (0.0)	90.7 (+0.4)	89.8 (+0.3)	87.8 (-0.1)
6	人の役に立つ人間になりたいと思う	91.8 (-0.7)	92.0 (-0.4)	91.4 (-0.5)	90.4 (0.0)	90.6 (+0.1)	89.4 (-0.2)

4 学校質問紙調査結果

(1) 結果の概要

※ 表の()内は全国との比較

- 「指導計画や学力向上に向けた取組を検討するにあたり、調査結果等を参考にした」と回答した学校の割合は、小・中学校ともに全国値よりも高く、20年度と比べ中学校での増加が大きい。
- 「模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っている」と回答した学校の割合は、小・中学校ともに20年度よりも増加しており、中学校が全国値よりも高い。
- 国語の指導において、「書く習慣や読む習慣を付ける指導」に取り組んでいる学校の割合は、小学校では20年度よりも減少し、中学校では増加しており全国値よりも高い。

(2) 学力・学習状況の活用

- 指導計画や学力向上への取組を検討するにあたり、調査結果等を参考にした割合は、小・中学校ともに全国値よりも高く、20年度と比べ中学校での増加が大きい。
- 小・中学校ともに、平成20年度全国学力・学習状況調査の結果を分析し、指導の改善に活用したり、対象学年・教科だけではなく、学校全体で活用したりしている割合が全国値よりも高い。

	質 問 事 項	小学校 (%)			中学校 (%)		
		H21	H20	H19	H21	H20	H19
1	指導計画や学力向上への取組を検討するにあたり、調査結果等を参考にしましたか	86.7 (+2.1)	85.8 (+4.0)		90.0 (+9.2)	84.5 (+5.6)	
2	全国学力・学習状況調査の結果を分析し、教育指導の改善に活用しましたか	97.3 (+4.4)	94.8 (+6.7)		94.5 (+5.8)	95.5 (+12.6)	
3	全国学力・学習状況調査の自校の結果を学校全体で活用しましたか	89.9 (+6.4)	90.8 (+13.4)		89.1 (+10.4)	89.1 (+17.7)	

(3) 国語、算数・数学の指導

- 国語の指導として、書く習慣や様々な文章を読む習慣を付ける授業を行った割合は、小学校では20年度よりも減少し、中学校では増加しており全国値よりも高い。
- 算数・数学の指導において、補充的及び発展的な指導に取り組んだ学校の割合は、小・中学校ともに全国値よりも高い。

	質 問 事 項	小学校 (%)			中学校 (%)		
		H21	H20	H19	H21	H20	H19
1	国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行いましたか	88.3 (-0.8)	90.1 (+2.7)	82.2 (-1.2)	95.0 (+4.1)	89.5 (-0.3)	85.8 (-1.9)
2	国語の指導として、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか	85.5 (+2.2)	87.4 (+4.5)	82.6 (+2.3)	85.9 (+3.2)	81.4 (-1.7)	84.4 (+2.3)
3	算数・数学の指導として、補充的な学習の指導を行いましたか	88.5 (+1.8)	93.1 (+3.1)	88.8 (+1.0)	88.2 (+2.1)	91.8 (+3.0)	91.2 (+4.5)
4	算数・数学の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか	55.4 (+0.9)	59.2 (+1.4)	56.4 (-1.9)	60.0 (+4.5)	55.9 (-3.2)	55.1 (-4.6)

(4) 個に応じた指導

- 算数・数学の指導において習熟の程度に応じて少人数による指導を行っている割合は、20年度と比べて中学校で減少しているが全国値よりも高く、小学校は全国値よりも低い。

	質 問 事 項	小学校 (%)			中学校 (%)		
		H21	H20	H19	H21	H20	H19
1	習熟の遅いグループに対して少人数による指導をしましたか	37.4 (-2.3)	33.6 (-6.9)		37.3 (+3.4)	42.7 (+6.0)	
2	習熟の早いグループに対して発展的な内容について少人数による指導をしましたか	26.9 (-5.3)	27.5 (-6.2)		32.7 (+3.1)	39.6 (+7.1)	

(5) 学習環境づくりに向けた取組

- 小・中学校ともに放課後を利用した補充的な学習サポートを実施した割合は20年度と比べ増加しており、特に小学校は全国値よりも高い。
- 小・中学校ともに長期休業期間を利用した補充的な学習サポートを実施した割合は、全国値よりも低い。
- 小・中学校ともに学校図書館を活用した授業を計画的に行った割合は、20年度と比べて増加しているが、全国値よりも低い。

	質 問 事 項	小学校 (%)			中学校 (%)		
		H21	H20	H19	H21	H20	H19
1	放課後を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか	76.9 (+16.0)	58.6 (+16.7)	61.0 (+20.1)	86.1 (+3.0)	63.6 (+6.4)	61.8 (+6.4)
2	長期休業期間を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか	46.6 (-10.4)	43.0 (-7.0)	41.2 (-6.6)	68.7 (-11.6)	70.0 (-7.0)	68.9 (-6.1)
3	「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けましたか	98.7 (+0.8)	95.0 (+1.8)	93.2 (+1.2)	93.2 (+1.8)	89.5 (+3.1)	88.9 (+4.3)
4	学校図書館を活用した授業を計画的に行いましたか	72.6 (-5.2)	63.5 (-3.8)	56.4 (-3.5)	41.3 (-6.3)	28.6 (-11.1)	36.0 (-2.3)

(6) 家庭学習・家庭との連携

- 国語、算数・数学の指導として、保護者に対して児童・生徒の家庭学習を促すよう働きかけを行った割合は、20年度と比べて中学校で増加しており、小・中学校ともに全国値よりも高い。

	質 問 事 項	小学校 (%)			中学校 (%)		
		H21	H20	H19	H21	H20	H19
1	国語の指導として、保護者に対して児童・生徒の家庭学習を促すよう働きかけを行いましたか	97.3 (+4.3)	97.3 (+6.7)		75.9 (+6.1)	67.3 (+0.7)	
2	算数・数学の指導として、保護者に対して児童・生徒の家庭学習を促すよう働きかけを行いましたか	97.1 (+4.7)	96.8 (+6.4)		73.6 (+3.5)	71.4 (+4.5)	
3	国語の指導として、家庭学習(宿題)の課題を与えましたか	99.3 (+0.3)	99.6 (+0.9)	98.4 (+1.3)	89.1 (+2.1)	85.5 (-1.0)	78.6 (-5.4)
4	算数・数学の指導として、家庭学習(宿題)の課題を与えましたか	99.1 (+0.1)	99.6 (+0.8)	98.7 (+1.2)	92.3 (+1.8)	94.1 (+3.7)	87.6 (-1.0)

(7) 教員研修

- 模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っている割合は、小・中学校ともに20年度と比べてやや増加傾向にある。中学校は全国値よりも高く、小学校は全国値よりも低い。
- 講師を招聘するなどの校内研修を行っている割合は、小・中学校とも全国値よりも低く、かい離が大きい。
- 授業研究を伴う校内研修を行った割合は、20年度と比べて中学校で増加傾向にあり、小・中学校ともに全国値よりも高い。

	質 問 事 項	小学校 (%)			中学校 (%)		
		H21	H20	H19	H21	H20	H19
1	模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか	91.2 (-2.5)	90.7 (-2.0)	88.5 (-2.8)	88.7 (+6.2)	88.2 (+7.0)	84.5 (+6.0)
2	学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか	73.7 (-18.2)	75.0 (-17.1)	70.1 (-20.9)	66.4 (-16.2)	59.0 (-23.9)	63.6 (-19.5)
3	授業研究を伴う校内研修を前年度、何回実施しましたか(9回以上)	50.0 (+6.4)	50.5 (+4.5)	44.5 (0.0)	30.5 (+4.4)	24.0 (-3.0)	22.7 (-2.9)

(8) 地域の人材・施設の活用

- 地域の人材を外部講師として招聘した授業を行った割合は、20年度と比べて小学校は減少傾向にあり、全国値よりも低い。
- 小・中学校ともに博物館や科学館、図書館を利用した授業を行った割合は、20年度と比べて減少傾向にあり、中学校は全国値よりも高く、小学校は全国値よりも低い。
- 職場見学や職場体験活動を行っている割合は、中学校は全国値よりも高く、小学校は全国値よりも低い。

	質 問 事 項	小学校 (%)			中学校 (%)		
		H21	H20	H19	H21	H20	H19
1	地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか	70.0 (-4.2)	75.7 (+0.9)	79.3 (+0.9)	56.8 (+0.2)	54.5 (-3.4)	58.2 (-1.4)
2	博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか	27.3 (-6.8)	33.1 (-3.4)	31.9 (-6.5)	23.7 (+7.0)	25.9 (+7.7)	30.7 (+10.0)
3	職場見学や職場体験活動を行っていますか	22.5 (-13.7)	25.9 (-8.5)	22.5 (-10.1)	99.1 (+2.0)	97.3 (-0.5)	99.1 (+3.1)

(9) 開かれた学校

- 地域の人々が自由に授業参観などができる学校公開日を設けている割合は、20年度と比べて中学校で増加しているが、小・中学校ともに全国値よりも低く、かい離が大きい。
- 小学校は6学年を、中学校は3学年を対象とした授業参観を前年度3回以上実施した割合は、20年度と比べて中学校で増加しており、小・中学校ともに全国値よりも高い。

	質 問 事 項	小学校 (%)			中学校 (%)		
		H21	H20	H19	H21	H20	H19
1	地域の人々が自由に授業参観などができる学校公開日を設けていますか	63.3 (-18.6)	64.0 (-17.2)	59.3 (-20.7)	57.3 (-19.9)	50.9 (-26.0)	50.2 (-24.4)
2	小学校は6年生を、中学校では3年生を対象とした授業参観を、前年度どれくらい実施しましたか(3回以上)	96.6 (+2.3)	96.2 (+2.3)	97.6 (+3.2)	81.9 (+6.7)	78.3 (+3.3)	79.6 (+3.8)

5 平均正答率の高い県との比較

児童生徒質問紙調査において、宮城県全体の課題をより明確に把握したいと考え、学習習慣や関心・意欲・態度等に関する43項目について、平均正答率の高い県（以下、高位県）と比較した。

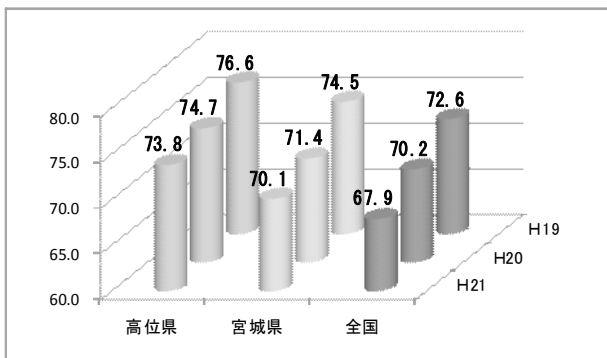
(1) 学習習慣等に関する全22項目の比較

主な質問事項

- ・ 一日当たり、どのくらいの時間テレビやビデオ、DVDを見ますか
- ・ 平日に、どれくらいの時間、勉強をしますか
(小学生30分以上、中学生1時間以上)
- ・ 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか
- ・ 家で学校の授業の予習をしていますか
- ・ 家で学校の授業の復習をしていますか
- ・ 家で苦手な教科の勉強をしていますか
- ・ 家でテストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強していますか など

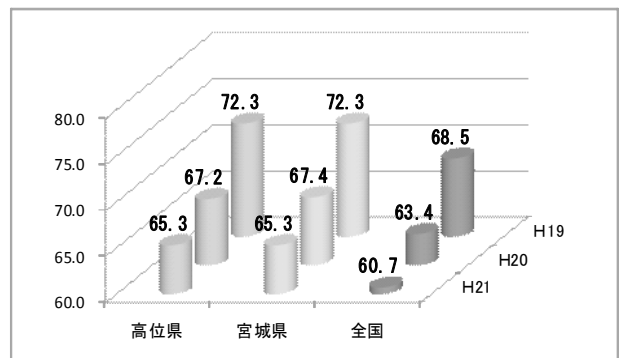
【小学校】

(%)



【中学校】

(%)



- ・ 小学生は全国値よりも高いが、高位県よりも低い。
- ・ 中学生は全国値よりも高く、高位県とほぼ同程度である。

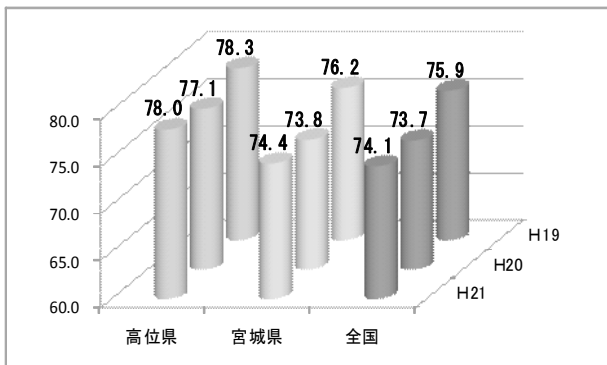
(2) 関心・意欲・態度に関する全21項目の比較

主な質問事項

- ・ 国語、算数・数学の勉強は好きですか
- ・ 国語、算数・数学の勉強は大切だと思いますか
- ・ 教科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか
- ・ 国語で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか
- ・ 国語、算数・数学の授業の内容はよく分かりますか
- ・ 読書は好きですか
- ・ 国語で意見などを発表するとき、話の組み立てを工夫していますか
- ・ 解答を文章で書く問題について、どのように解答しましたか（最後まで書く努力をした） など

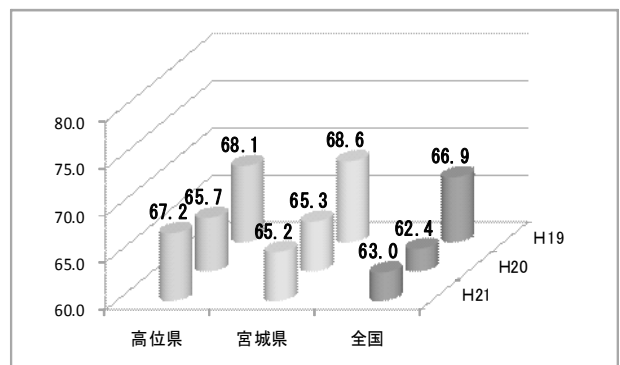
【小学校】

(%)



【中学校】

(%)



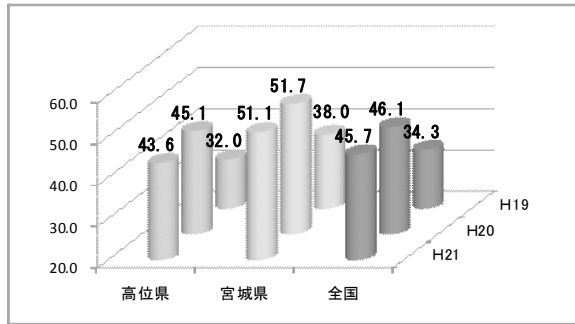
- ・ 小・中学生ともに、全国とほぼ同程度であるが、高位県よりも低い。

(3) 質問事項別の比較結果 (児童生徒質問紙調査の全項目の中から特徴の見られた主な項目について)

① 3時間以上テレビやビデオを視聴している割合

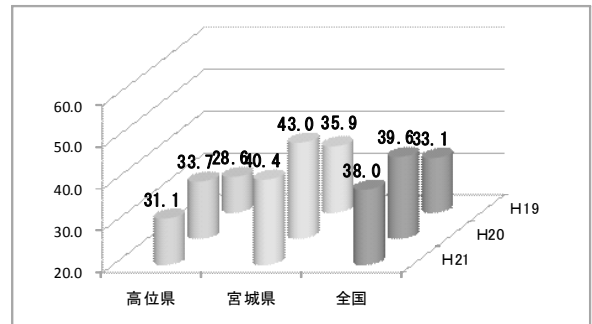
【小学校】

(%)



【中学校】

(%)

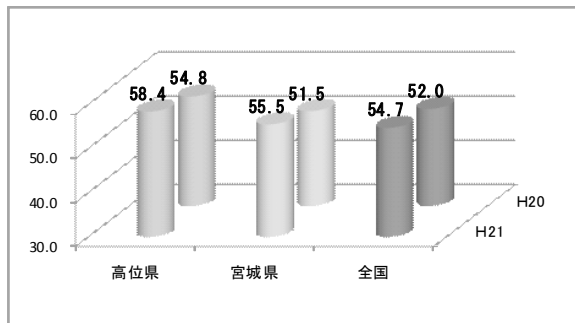


・小・中学生ともに、昨年度よりも減少しているものの、全国値や高知県よりも高い。

② 自分で計画を立てて勉強している割合

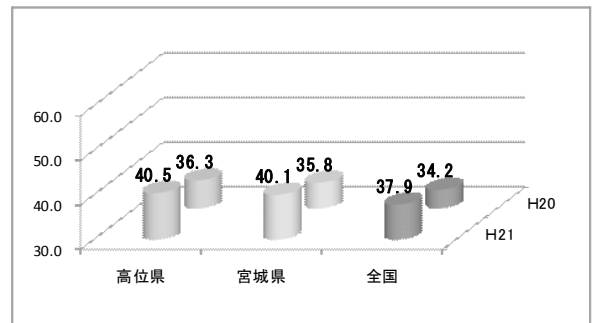
【小学校】

(%)



【中学校】

(%)

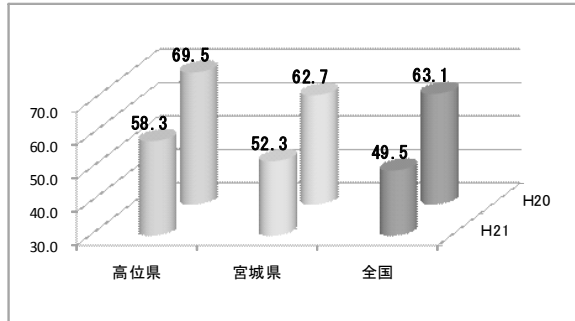


・小・中学生ともに、全国値よりも高いが、高知県よりも低い。

③ テストで間違えたところを後で勉強している割合

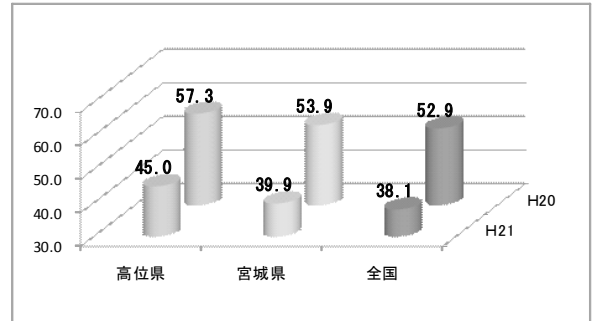
【小学校】

(%)



【中学校】

(%)

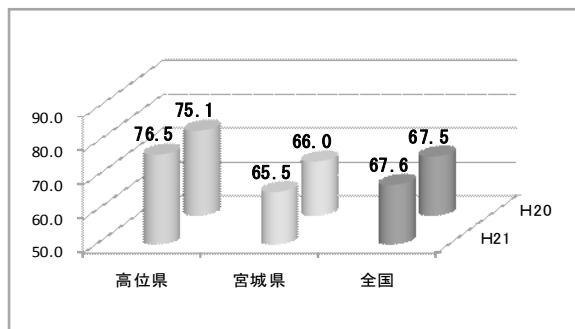


・小・中学生ともに、昨年度よりも減少しており、全国値よりも高いが高知県よりも低い。

④ 国語の記述問題で最後まで書く努力をした割合

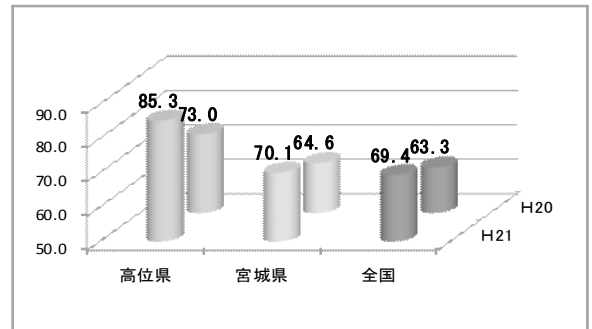
【小学校】

(%)



【中学校】

(%)



・小・中学生ともに、全国とほぼ同程度であるものの、高知県よりもかなり低い。

今後も、学習習慣形成に向けた取組を継続するとともに、学習への意欲を高め、自主的に学習する態度を養うことが大切である。

正答率の高い児童生徒の生活・学習習慣等について

検証改善委員会では、児童生徒の生活・学習習慣や学習への関心・意欲・態度が、それぞれ学力とどのくらい関係しているのかを統計学的に明らかにするために、平成20年度から重回帰分析を行っています。本年度の分析結果から、正答率の高い児童生徒は次のような取組をしていることが分かりました。

※平成20年度の結果については「平成20年度検証改善委員会報告書」参照

- ・朝食を毎日食べている
- ・平日、小学生は30分以上、中学生は1時間以上勉強している
- ・家で学校の授業の復習をしている
- ・算数・数学の問題が分からないときは、あきらめないで考える



平均正答率の高い学校の取組について

検証改善委員会では、本県で比較的平均正答率の高い学校がどのような取組をしているのかを探るために、学校質問紙調査の回答内容を調べました。その結果、比較的平均正答率の高い学校では、次のような取組をしていることが分かりました。学力向上に向けた指導改善の方向を考える上で、参考としたいですね。

【指導方法】

- ・児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている
- ・児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めている
- ・学習方法（適切にノートをとる、テストの間違いを振り返って勉強するなど）に関する指導をしている
- ・児童生徒に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている

【学習規律】

- ・学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底している

【家庭学習・家庭との連携】

- ・国語の指導として、保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけをしている
- ・国語、算数・数学の指導として児童生徒に与えた家庭学習の課題について、評価・指導を行っている

【研修等】

- ・教職員は、校内外の研修や研究会に参加しその成果を教育活動に積極的に反映させている

第2章

児童生徒の学力向上に向けて

第2章 児童生徒の学力向上に向けて

1 教員の教科指導力の向上に向けた取組

第1章における分析を受けて、次のような点から改善を図り、教員の教科指導力の向上に取り組むとともに、児童生徒の学力向上を目指したい。

(1) 授業改善のポイント

①「読む」「書く」「話す」活動の充実

授業において「聞く」活動は特に大切である。しかし、求められるのは、教師の話を手ただ聞くだけの受け身の「聞く」活動ではなく、主体的な「聞く」活動である。そこで、授業のねらいに合わせて、1単位時間の中に意図的に「読む」「書く」「話す」活動をバランスをよく組み込む工夫をしながら子どもに考えを深めさせ、聞く観点を明確にしたり、さらに聞きたいという思いを膨らませたりするような指導が大切である。

言語活動を充実させる指導

子どもの思考力・判断力・表現力をはぐくんでいくとき、言語に対する関心や理解を深め言語に関する能力の育成に向けて、必要な言語環境を整え、子どもの言語活動を充実させていく必要がある。

各教科での言語活動

学習の基盤となるものは、言語（数式なども含む）であり、国語科が担うことは大きい。しかし、すべてが国語科の役割とはいえない。各教科の教育内容として記録・要約・説明・論述などの活動を適切に位置付け、言語活動の充実を図る必要がある。

②思考力・判断力・表現力の育成

子どもがもっている思考力・判断力・表現力を存分に発揮させることで、より一層高めるという指導を心掛けることが大切である。

＜知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力をはぐくむ上で重要な活動の例＞

- ・ 体験から感じ取ったことを表現
- ・ 情報を分析・評価、論述
- ・ 事実を的確に理解して伝達
- ・ 課題について構想し実践、評価
- ・ 概念、法則、意図を解釈して説明、活用
- ・ 考えを伝え合い、考えを発展

※小学校低・中学年：基本的な内容（重点指導事項、音読・暗唱、漢字の読み書き等）

※小→中→高校：記録・要約・説明・論述などの活動を発達段階に応じて指導

③体験的・作業的活動の重視

体験的・作業的活動は、直接体験を通して、子どものもつ思考力・判断力・表現力を存分に発揮させる上で大切にしたい活動である。ねらいに応じて効果的に取り入れたい。

＜教科における体験的・作業的活動の例＞

- 国語：討論、意見文や報告文の作成、編集など
- 社会：観察、調査、見学、ものづくりなど
- 算数・数学：算数的活動、数学的活動
- 理科：観察、実験、栽培・飼育、ものづくりなど

④教科のおもしろさに触れさせる指導

教科のおもしろさに触れさせたい。そのためには、教科固有のおもしろさや教材の価値を教師自身を知ることが必要であり、教材研究を行う上で一番大切なことになる。

- ・ 意味がよく分かった、納得した
- ・ 作業や体験そのものが楽しい、心地よい
- ・ 解決できた（工夫してやり遂げた）など

→充実感→ 子どもの主体的な取組が期待できる

以上のような授業改善のポイントを踏まえ、各学校では、児童生徒の実態をおさえ、地域の特性を生かしながら、学校が一丸となって指導計画を改善したり（単元構成の工夫）、地域素材を生かした教材を吟味をしたりするなど、日常の授業の質の向上に努めたい。そして、実践の評価を大事にし、児童生徒一人一人を適切に見取るとともに、次の指導に生かしていくことが大切である。

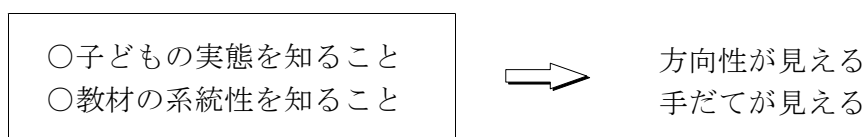
(2) 日常の授業で大切にしたいこと

①学習課題の設定を丁寧に行う

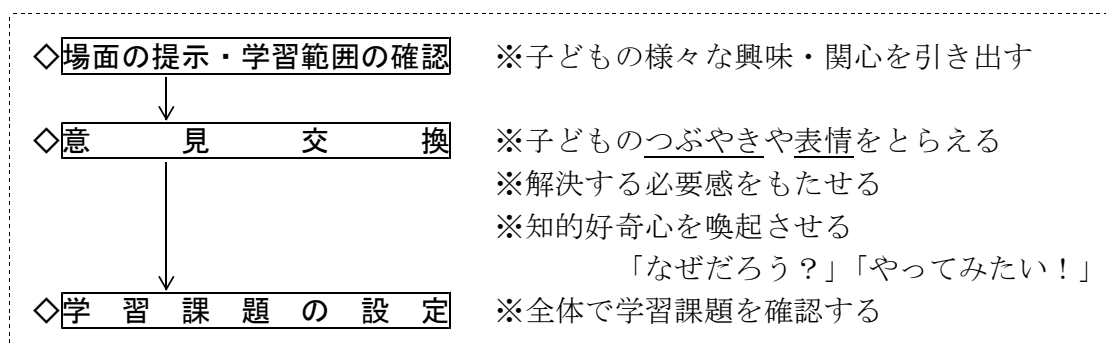
1 単位時間の授業内容を方向付けるのが学習課題である。学習課題は、教師の指導のねらいと子どもの思いや興味・関心から設定されるものである。教師は、指導のねらいを達成させるために子どもにどんな思いをもたせたいのかという明確な願いをもち、子どものつぶやきや表情をとらえ、知的好奇心を喚起させながら学習課題を設定することが大切である。子どもとともに学習課題を丁寧に設定することは、授業で解決していくことや活動していくことを明確にし、深まりのある学びにつながるきっかけとなる。

学習課題の設定は、子どもを知り、教材を知ることから

授業を構成していくとき、子どもとどう向き合うかが大切になってくる。その入り口となる学習課題の設定の際に必要なことは、子どもを知り、教材を知ることである。



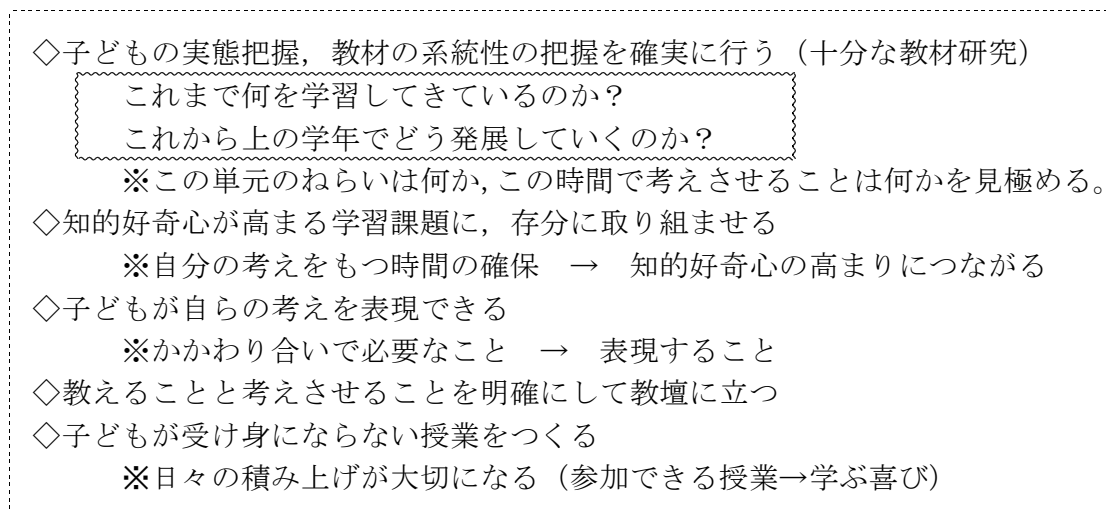
興味・関心を引き出し、知的好奇心を喚起する学習課題の設定



②学びが深まる場面をつくる

設定した学習課題に取り組む中で、その学習課題に対して新たな興味・関心が生まれたり、知的好奇心が高まったりして、学びが深まる場面を設定することが重要である。

学びが深まる場面をつくるための条件



③発問を吟味する

発問は、指導のねらいと子どもの実態に即して、一連の系統と深まりをもったものでありたい。

発問の要件 ◇意図を明確にする ◇簡潔に問う ◇平易な言葉で吟味する

よい発問にするための留意点

- ◇一問一答にならず、子どもの間で関連発問（たずね合うこと）が出るように
 - ※「ピンポン型」より「バレーボール型」
- ◇子どもの思考を揺さぶり、考えの広がりを得られるように（幅のある発問）
 - ※知的好奇心の高まりが学び合いを深める
- ◇考える時間を十分にとる

④集団での話し合いを大切にす

次の流れを参考に発問の吟味をし、指導のねらいに向けた話し合いを大切にする。

◇たずね合う	「〇〇のところが分からない?」「なぜ、そうなるのか?」「資料のどこから分かるのか?」
◇つなげ合う	「〇〇のところが同じ考えだ」「〇〇は考え方が似ている」「前に勉強したのと同じ考えだ」
◇練り合う	「考え方が違うぞ」「なぜそういう考えなのか」
◇よさを認め合う	「AとBでは、Bの方が分かりやすい」「便利な考え方だ」「参考になる考えだ」「習った考え方を使っている」

集団での話し合いを行わせる上での留意点

- ◇話し合いのサイクルを習慣化する
 - 「聞くこと→疑問を抱く→自分で解決→他の考えへの気付き（かかわり）→新たな発見・気付き（疑問）」
 - ※集団での話し合いでの基本は、相手の話を聞くことから始まる
- ◇自分の考えや友達の考えの根拠を明確にする（言葉で表現させる）
- ◇子どものつぶやきを拾い、授業に生かす
 - ※良いつぶやきを拾い上げる教師の見極めが必要 ←教材研究の深さ

話し合いの形態の工夫

どんな話し合いの形態が子どもの思考過程において有効なのかどうかを、学習内容及び子どもの実態から十分に吟味していきたい。

特に、グループ活動などを取り入れる場合は、次の点に留意したい。

- ◇教師が、活動の意図を明確にもつ（何のためにグループで話し合うのか?）
- ◇活動の意図を子どもへ明確に伝える（何を話し合うのか?）
- ◇活動内容によるグループの人数や編成を吟味する
- ◇課題解決に向けて話し合いの見通しを教師がもつこと、子どもにもたせること

話し合いの条件整備

「何でも言い合える学級」は、集団での話し合いを深めるためには1つの条件となる。そのためには学級活動の充実が大切になり、すべての教科、そしてすべての教育活動に大きく影響してくる。

みんなの前で話すために → 集団の人間関係が大切（認め合い、励まし合い）

話し合いのルールの訓練 → 話の聞き方、話し方、質問の仕方（学級活動との連携）

日々の積み上げ → 学級の時間の活用、朝の会・帰りの会の活用

⑤板書を吟味し、活用する

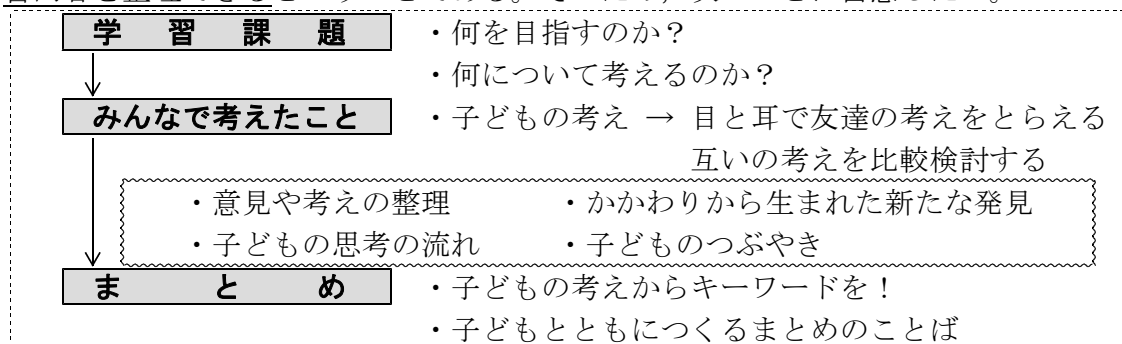
1 単位時間でつくり上げた授業の足跡が見え、教師と子ども、子どもと子どもがかかわり合った結果として表現されたものが板書である。

よい板書とは？

本時の授業の流れが分かる板書

1 単位時間の授業が終わり、板書を見たときに授業の流れが見えてくるだろうか？

1 単位時間の流れが見えるということは、教師自身が授業内容を整理しているということである。そして大切なのは、子どもが学習内容を整理できるということである。そのため、次のことに留意したい。



子ども同士のかかわりが見える板書

板書は、子どもたち全員のノートであり、板書の中に子どもの考えを整理することが大切である。そこから新たなかかわりが生まれ、子どもが考えを深めるきっかけにもなる。(板書の中に子どもが見えますか？ そして、子ども同士のかかわりが見えますか？)

授業で活用できる板書

板書を授業の中で大いに活用したい。子どもの考えがまとめられている板書を活用することが分かりやすい授業につながる。具体的には次のような活用例がある。

- ◇思考の流れを確認したり、整理したりする(課題→解決→まとめ)
- ◇出された考えを類型化したり、かかわらせたりする(考えを深めさせる)
- ◇1 単位時間の振り返りをし、次時の見通しをもつ(まとめの段階)

⑥ノート指導を大切に

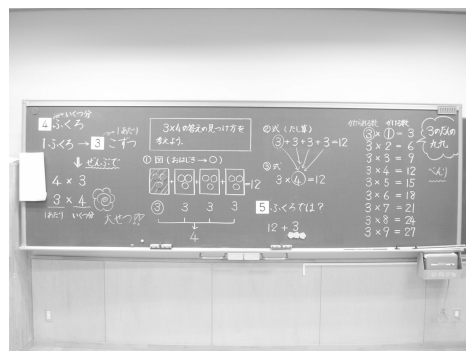
ノートはとるものではなく、つくるもの！

学習した考え方を活用していく上で、常に戻って繰り返し見たり、さらに書き加えたりできるようにすることが大切である。

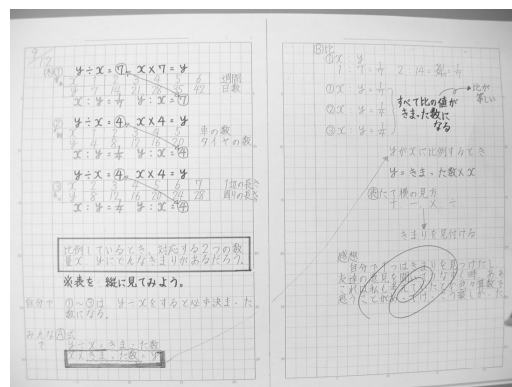
- ◇自分の考えた足跡が分かるノートにする
- ◇振り返りができるノートをつくる
- ◇学習感想を書く習慣を付ける

ノート指導には時間をかけて！

効率よくノートをつくることのできるようになるため、小学校低学年からの指導の積み上げを大切に、学校全体として計画的に取り組みたい。こうした日々の積み上げが子どもの学力の向上につながっていく。



【2年算数「かけ算」より】



【6年算数「比例」より】

(3) 教科に関する調査結果に見られる国語、算数・数学の課題から

教科に関する調査において正答率の低かった問題や無解答率の高かった問題（特に全国とのかい離が大きいもの）の内容について分析し、具体的な指導改善を図る必要がある。

以下、県全体で国語、算数・数学に課題の見られる内容について、授業のアイディア例を掲載した。その例を参考に、各校における調査結果の分析を踏まえ、指導改善すべき点を明確にしながら、児童生徒の実態に応じた授業を展開していくことが大切である。

①国語科

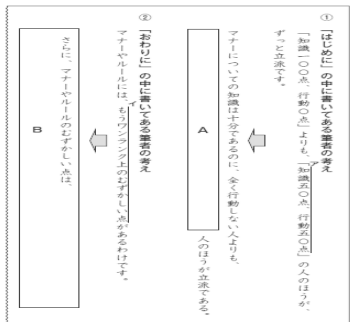
◎指導改善のポイント1

<国語>

目的や意図に応じて読み，自分の考えをまとめる

○課題の見られた問題の概要と結果

(小) B 3 二



(小) B 3 二 筆者の考えを自分の言葉で書き換えたり要約したりして書く
(正答率 48.4% 全国とのかい離 - 2.5 ポイント)

目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえさせるためには、意味段落や形式段落ごとにキーワードを見つけさせたり、小見出しを考えさせたりしながら、文章全体の要約をさせることが大切です。

○授業アイディア例

◆説明文における要約の手順

- ①意味段落に分ける。
- ②意味段落ごとのキーワードや小見出しを考える。
- ③形式段落ごとのキーワードを見つける。
- ④キーワードをつなぎ、意味段落の要約文を書く。
- ⑤意味段落の要約文をつなぎ、文章全体の要約文にする。



◆キーワードを見つけるポイント

- ①繰り返し出てくる言葉
- ②筆者の主張を表している言葉
- ③まとめている言葉
- ④初めて出てくる言葉

なるほど。こうすると要約も簡単だね!



◆こんな文に気を付けさせる

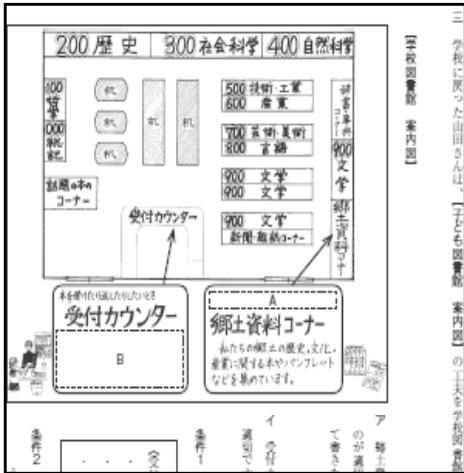
- ①問題提起の文
「～でしょうか。」「～だろうか。」
- ②例を述べる文
「例えば～」 「例をあげると～」
「～の例として」 「～を例にとってみると」
「実際に」 「～が見られるのは～ばかりではない。」
※逆の例を述べる場合
「逆に～」 「仮に～だとすると」
「もし～だったとすると」
- ③理由を述べる文
「そのわけは～だからです。」 「なぜかという～」
「その理由として～」 「～なのです。」 「～と考えられます。」



相手や目的に応じた表現の工夫

○課題の見られた問題の概要と結果

(中) B ①三



(中) B ①三 子ども図書館案内図の工夫を生かして、学校図書館にある案内図の郷土資料コーナーの見出しを書く

(正答率 62.9% 全国との無回答率のかい離 - 1.6 ポイント)

(中) B ②二 説明的な文章の内容を読み取り、発光ダイオードの特徴を箇条書きで書く

(正答率 68.6% 全国との無回答率のかい離 - 2.0 ポイント)

※これら2つの問題についての正答率は全国を上回ったが、無回答率が高かった。

相手や目的に応じて表現の仕方を工夫することを、各教科等における学習の中で生かしていくことが大切です。


○授業アイデア例

◆「学校案内パンフレットをつくろう」(中3年)

◆ねらい

新入生向けの学校案内パンフレットを作成する活動を通して、相手や目的に応じた表現ができるようにする。

◆授業の展開例

主な学習活動	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> ・学習の目的を理解し、各自タイトルを設定する。 ・タイトルや項立てを基に、キャッチコピーを作成する。 ・割り付けを考える。 ・原稿を書き、パンフレットを完成させる。 ・全員でパンフレットを読み合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校紹介」「先生紹介」「部活動紹介」「学校行事紹介」全体的な紹介でも、部分的な紹介でも構わないことを確認する。 ・様々な表現方法でタイトルや項立てにあったキャッチコピーを作成させる。 体言止めで ・倒置法で ・掛け詞で ・パンフレットのサイズを考え、記事の割り付けを考えさせる。 ・項立てごと作成したキャッチコピーを入れ、原稿を作成させる。 ・相手や目的を意識した表現を工夫させる。 ・互いによかった点を認め合わせるとともに、更に工夫するとよい点についても意見を交換させる。 <div data-bbox="1145 1529 1362 1637" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;"> 表現を変えるだけで、意味が強調されるね！ </div> 

すぐれた表現を味わいながら読む

○課題の見られた問題の概要と結果

(小) A⁵ (中) A⁷一

	4	3	2	1	「表現のくふう」 美奈と友だちとの関係が分かるように、それぞれの性格や考え方を書いている。美奈が体験したことを、ほかの登場人物に対して語りかけるように書いている。美奈が取り組んだお菓子づくりのことを、つくった順序のとおりに書いている。美奈がお菓子をつくるたびに失敗してしまう様子を、たとえを使って書いている。
	4	3	2	1	
	秋暮れて今年もさむし午後はやく日かげる庭の白菊の光り	秋暮れて今年もさむし午後はやく日かげる庭の白菊の光り	秋暮れて今年もさむし午後はやく日かげる庭の白菊の光り	秋暮れて今年もさむし午後はやく日かげる庭の白菊の光り	
	秋暮れて今年もさむし午後はやく日かげる庭の白菊の光り	秋暮れて今年もさむし午後はやく日かげる庭の白菊の光り	秋暮れて今年もさむし午後はやく日かげる庭の白菊の光り	秋暮れて今年もさむし午後はやく日かげる庭の白菊の光り	

(小) A⁵ 文章の表現の工夫を説明したものとして適切なものを選択する

(正答率 57.0% 全国とのかい離-1.7 ポイント)

(中) A⁷一 短歌について、言葉のつながりや意味から切れめを付けたものとして適切なものを選択する

(正答率 26.3% 全国とのかい離-2.6 ポイント)

「読むこと」においては、内容を理解するだけでなく、表現のよさや表現の効果などを感じ取って、鑑賞しながら読むようにすることが大切です。

文章の構成や表現の仕方に着目させ、自分の考えをまとめさせたり、意見や感想を交流させたりすることを取り入れましょう。

また、短歌を読み味わわせるためには、言葉のつながりや意味のまとまりをとらえたり、語句の効果的な使い方や表現上の工夫に着目したりして、作者の気付きや感動をとらえさせることが大切です。

目的意識をもって、さまざまな種類の本を読むことを取り入れながら指導を行うことが必要です。読書指導を継続して行いましょう。

○授業アイディア例

◆音読・朗読を効果的に取り入れる

- ・言葉の響きを楽しむ読み
- ・文章を理解するための読み
- ・気持ちを伝えるための読み など

音読の仕方には

- ・一斉音読
- ・一文読み
- ・リレー読み
- ・表現読み（強弱、緩急を付けて）

などがあります。



◆作者の意図や表現の効果に着目させる

- ・言葉の意味を考える。
- ・言葉の働きを確かめる。
(置き換えたり、分類したりする)
- ・表現の工夫を考える。

表現の工夫には

- ・比喩や反復
- ・擬声語・擬態語
- ・誇張
- ・倒置
- ・省略 などがあります。



◆自分の考えや意見を書く活動を設ける

- 記述に際して—
- ・適切な言葉で書く。・短い文章で書く。
 - ・短時間で書く。・論理的に書く。

言葉や文章に着目して、書かれていることを基に、根拠を明らかにして書くことが大切です。



◆小集団から全体へ、意見の交流をさせる

—意見の交流に際して—

- ・はっきりと話す。・観点をもって聞く。
- ・参考になる考えのメモをとる。



意見や感想を交流をすることで、自分の考えを深めたり、新たな見方に気付いたりすることができます。

◆短歌の表現を味わわせる

- ・一度読んで分かりやすいものを取り上げる。
 - ・リズムや表記、助詞や助動詞、歌語などの視点から分析する。
 - ・感覚的にならずに論理的に鑑賞する。
- ※様々な短歌に触れることで、短歌に親しむ態度を育てる。

◆教材文と関連させた読書指導を行う

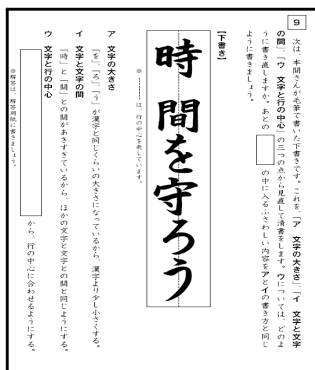
- ・教材文をテーマや表現の特徴等の視点をもって読ませる。
- ・同じ作者の他の作品を読み、テーマや表現の特徴の共通点や相違点について検討させる。
- ・同じテーマを扱っている他の作者の作品を読ませ、テーマに対する考えの違いを比較させる。

◎指導改善のポイント4

<国語>

毛筆で書く（文字の形や大きさ配列などの理解）

○課題の見られた問題の概要と結果



(小) A9 文字の大きさや配列に注意して下書きを見直し、書き直す部分とその理由とを指摘する
(正答率 24.2% 全国とのかい離- 4.8%)

国語科の学習のみならず、各教科等の学習や日常生活においても、目的や場面に応じ、文字の大きさや配列に注意して書くことが大切です。
毛筆の学習を硬筆に生かしましょう。

○授業アイディア例

- ◆教室には書写の作品を掲示し、よさを見合わせる。
- ◆ポスターや新聞、パンフレット、案内状などを作させる際には、学習したことを生かして、文字を整えて書かせる。

・文字の大きさや配列に対する意識を高める指導を行う
(発達段階に応じた積み重ねの指導を継続的に行う)

<小学校>

第1・2学年…文字の形に注意して丁寧に

第3・4学年…文字→語句→文→文章と活用の幅を広げながら、文字の大きさや配列に気を付けて

第5・6学年…文字の大き形、大きさ、配列を理解して

<中学校>

第1学年…字形を整え、文字の大きさ配列を理解して楷書で

第2学年…漢字の行書、調和した仮名の書き方を理解して読みやすく速く

第3学年…効果的に文字を書こう。



漢字の読み書き

○課題の見られた問題の概要と結果

(中) A 8 一 (小) A 1 一

<p>3 燃料をオキナウ。</p> <p>2 ジシヤクを使って方位を調べる。</p> <p>1 世界イサンを見学する。</p>	<p>(3) めずらしい植物を採集する。</p> <p>(2) 春から夏へ季節が移る。</p> <p>(1) 駅は混雑している。</p>	<p>一 次の(1)から(3)までの文の部の選</p>
---	--	-----------------------------

(小) A 1 一 漢字を読む (採集する)
(正答率 75.7% 全国とのかい離 -4.3ポイント)

(中) A 8 一 漢字を書く (ジシヤク)
(正答率 80.6% 全国とのかい離 -3.4ポイント)

漢字を覚えさせるには、単に漢字の書き取りをさせるだけでなく、日常のノートや作文での使用を意識させたり、遊びの中で漢字を覚えさせたりすることも効果的です。

○授業アイデア例

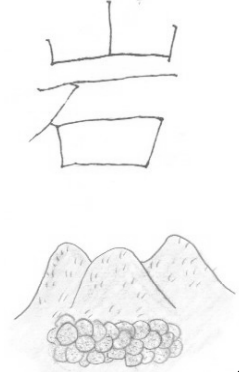
◆「漢字カルタをつくろう」(小3年)

◆ねらい


漢字の特徴を理解し、漢字に対する興味・関心を深めるとともに、これまでに学習した漢字の使い方に習熟できるようにする。

◆授業の展開例

「山の石は岩のように大きい」



「木をたて直して直してくれる植木屋さん」



① この漢字はどんなふうな読み方がありますか。(音読み)

② この漢字はどんな読み方がありますか。(音読み)

③ この漢字の画数も、たえてください。(音読み)

① 何という読み方がありますか。(音読み)コク

② 同じ読み方をする漢字を三つあげてください。(音読み)黒

品ならべのいいおせじご食品を買おう。

主な学習活動	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> ・「漢字発見カード」を作る。 ・「漢字もの知りかるた」を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の形が分かるような文・絵を作成するよう声掛けをする。 ・漢字の全ての読み方を使ってカルタを作成させる。 <ul style="list-style-type: none"> ①読み方・使い方 ②読み方クイズ ③画数クイズ
<ul style="list-style-type: none"> ・「漢字発見カード」や「漢字ものしりカルタ」でゲーム大会をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達が作ったカードでゲームをすることにより、自分が気付かなかった漢字の読み方や成り立ち等に気付くことができるようにする。

なかなか難しいクイズだなあ。
がんばって答えるぞ!



語彙を増やす活動 — ローマ字の学習・辞典の活用 —

○課題の見られた問題の概要と結果

- (小) A2 1 ローマ字で身近な単語を清音で書く
(正答率 66.6% 全国とのかい離- 2.8 ポイント)
- (小) A2 2 濁音を含んだローマ字で身近な単語を書く
(正答率 41.8% 全国とのかい離- 3.7 ポイント)
- (小) A2 3 促音を含んだローマ字を正しく読む
(正答率 48.8% 全国とのかい離- 3.1 ポイント)

ローマ字の指導については、様々な学習や生活において使うようにすることが大切です。
語や文、文章を作る学習を設定し、繰り返し取り組むことが定着を図るためには効果的です。

○授業アイデア例


◆ローマ字の規則性をおさえさせる

- ローマ字表を使って「かな五十音」と対応して考えさせる。
- 母音と子音を基礎とした五十音表の規則性をおさえさせる。
- ※ローマ字を読んだり書いたりすることができるようになるだけでなく、日本語の音節が子音と母音を用いていることが意識できるようにする。

◆生活の中で、進んで読んだり書いたりさせる

- 日常生活においても、ローマ字表記が添えられた案内板やパンフレットを見たり、コンピュータを使ったりする機会を増やし、ローマ字を生活に身近なものとして意識させる。

- ・ローマ字日記を書いてみましょう。
- ・身の回りにあるローマ字で表記されたものを探し、読んでみましょう。




語彙を増やしていくために

◆国語辞典や漢字辞典を積極的に利用させる

- 辞書を利用して調べる習慣を付けさせる。
- 各教科等の学習や日常生活においても、積極的に辞書を利用できるようにする。

- ・国語辞典で言葉遊びをしてみましょう。
- ・国語辞典を使ってみましょう。
- ・いつでも手元に置いて調べましょう。
- ・調べた言葉に付箋を付けたり、書き写したりしましょう。



※漢字や慣用句を具体的な使用場面に即して学習できるようにすることも大切である。

②算数・数学科

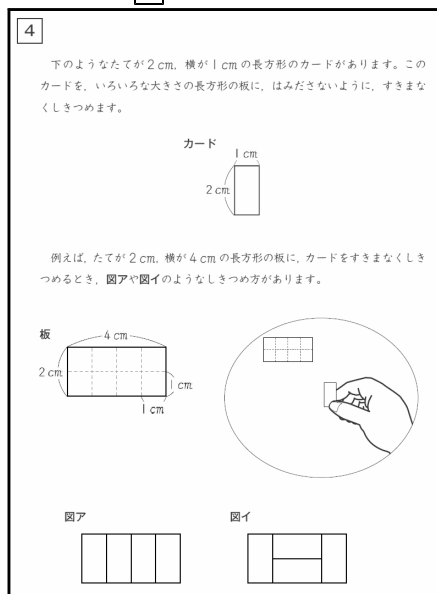
◎指導改善のポイント1

<算数>

有用性を実感できるようにする工夫 — 偶数と奇数 —

○課題の見られた問題の概要と結果

(小) B **4** (3)



(小) A **2** (4)

(4) 次の数の中から偶数をすべて選んで、書きましょう。

0 , 1 , 35 , 78 , 100

(小) A **2** (4) 整数の中から偶数を選ぶ

(正答率 71.4 % 全国とのかい離 -6.0 ポイント)

(小) B **4** (3) 縦 2 cm, 横 1 cm の長方形のカードを敷き詰められない長方形を考え, その辺の長さを書く

(正答率 46.8 % 全国とのかい離 -2.0 ポイント)

日常生活の中で偶数や奇数を活用する場を設定し, その有用性を実感できるようにすると効果的です。

○授業アイデア例

◆割り箸くじを使ったグループ分け

割り箸をクラスの数分用意し, 端の方に番号を書いておく。そしてそれらを缶などに入れる。グループに分けるときにこの割り箸くじを使うことによって, 偶数・奇数を意識させることができる。

2つのグループに分けたいとき・・・偶数と奇数

4つのグループに分けたいとき・・・20までの数の偶数と奇数

20より大きい数の偶数と奇数

このような工夫によって, 楽しみながら日常的に偶数・奇数を使うことができる。

◆偶数奇数しっぽつかみゲーム

2人組になり, 偶数役と奇数役を決める。2人が向かい合い, それぞれ右手をずいずいずっころばしのように軽く握り, 左手は人差し指を立てる。そして左手を相手の右手の中に入れた状態でゲームを開始する。教師が偶数の数を言ったら偶数役の児童が相手の人差し指を握り, 奇数役の児童は, つかまれないようにすばやく人差し指を抜く。教師が奇数の数を言ったら, その逆を行う。このようなゲームを通して, 楽しく偶数・奇数の習熟を図ることが考えられる。

○留意点

- ・(小) B **4** (3) の問題は, 偶数・奇数を問う問題ではないが, 2 cm^2 が敷き詰められるかどうかを判断するとき, 1 cm^2 の数が偶数であれば敷き詰められて, 奇数であれば敷き詰められないことに気付かせる。

数学的な思考力・表現力 —グラフ・概数—

○ 課題の見られた問題の概要と結果

2

上皿てんびんと分銅を使って、いろいろな物の重さを調べています。

(1) たかしさんは、消しゴムの重さをはかっています。

下の図のように、左の皿に消しゴムをのせ、右の皿に5g、1g、0.5gの分銅を1つずつのせるとつりあいました。

左の皿にのせた消しゴムの重さは何gですか。答えを書きましょう。

右の皿にのっている分銅

(小) B 2 (2)

たかしさんは、実験①、実験①と②について、下のように表にまとめました。

	黒の球の重さについて 実験からわかったこと	黒の球の重さとして 考えられるもの
実験①	20gより軽い	9g、13g、15g、17g
実験①と②	10gより重く20gより軽い	13g、15g、17g
実験①と②と③	ア	イ

表の続きをまとめます。

実験①と②と③について、上の表の「ア」と「イ」に入る言葉や重さを書きましょう。

(3) 74291を、四捨五入して、千の位までの概数で表したものを、下の**1**から**4**までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

1 70000

2 74000

3 74300

4 75000

(小) A 2 (3)

- (小) A 2 (3) 千の位までの概数にする
(正答率 70.5% 全国とのかい離 -5.3ポイント)
- (小) A 8 2つの情報をまとめて表に表す
(正答率 65.7% 全国とのかい離 -3.1ポイント)
- (小) B 1 (1) 必要な条件をすべて選び出す
(正答率 48.5% 全国とのかい離 -2.6ポイント)
- (小) B 2 (2) いくつかの条件を重ね合わせて判断していく
(正答率 43.1% 全国とのかい離 -2.6ポイント)

いくつかの条件を論理的に考えながら、グラフに表すことによって、数学的な思考力や表現力を育てていくことが大切です。

◎ 授業アイデア例

わたしたちの学校の児童数の変化をグラフに表しましょう。

※自分の通う学校の児童数の資料を活用して、その変化をグラフに表す。その過程でいくつかの条件を論理的に考える場を設定し、数学的な思考力や表現力の向上をねらう。

(1) たての一目盛りが表す人数を決める。

一番多い年で1208人、一番少ない年は365人です。その差は何人ですか。

差は、843人だから、1目盛り100人にしよう。そうすると何目盛り必要な？



省略を表す波線を使うと便利です。



そうか、1208人は、13目盛り必要だけど、波線を使えば300人から始められるから…

(2) 児童数を四捨五入して概数にする。

1目盛り100人すると、何の位を四捨五入すればいいのかな？十の位まではグラフに表すことができるのだから、十の位までの概数にしよう。ということは、一の位を四捨五入すればいいんだ。



(3) グラフを作成する。

- ① x軸に年、y軸に人数をとり、単位を書く。
- ② 題を書く。
- ③ グラフに数値を示す。
- ④ 線で結ぶ。
- ⑤ 考察する。

※ 最初の数値は、y軸のとなりの線上に打つことを確認する

※ 最初の数値は、原点と結ばないことに留意させる。

(4) 1目盛りのとり方の違うグラフを互いに見合い、比較する。



みなさんが作成した何種類かのグラフを見て、それぞれのよさや工夫について話し合きましょう。

- 波線を用いると、変化がはっきり分かるグラフになる。
- 1目盛りが表す人数を多くすると、グラフの縦の長さが短くなる。それにともない、変化の幅は、小さくなる。

急に減っているところは、何があったんだろう。調べてみたいな。



(5) 学習を振り返る。



自分がかいたグラフを見直してみましよう。よかったところやさらに工夫できるところを見つけましよう。友だちのかいたグラフを見て、分かったことや学んだこともノートに書いておきましよう。

○留意点

- ・概数の必要性、有用性を実感させる。
- ・何の位までの概数にするかによって1目盛りの大きさが変わってくることに気付かせる。

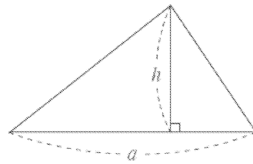
式による表現 ー式変形によさー

○課題の見られた問題の概要と結果

(4) 右の図で、底辺の長さ a 、高さ h の三角形の面積 S は、次のように表されます。

$$S = \frac{1}{2} ah$$

底辺の長さを求めるために、この式を、 a について解きなさい。



(中) A② (4) 具体的な場面で関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて式を変形する

(正答率 38.3 %

全国とのかい離 -6.2 ポイント)

式の変形は無目的に行うのではなく、具体的な場面に即して目的に応じて式を変形するよさを実感させることが大切です。

○授業アイデア例

(1) 「 a について解く」などのような、数学的な言い方(表現)についてはしっかりと指導する。



「 a について解く」とは、 $a = \bigcirc\bigcirc$ という形に直すことを言います。



そういえば、1次方程式で、 x の値を求めるときに、 $x = \bigcirc$ の形に直すことを「 x について解く」って言ってたね。

(2) 等式の性質など、根拠に基づいて正しく変形させる。



等式の変形の際には、何に気をつけないといけないでしょうか？

※等式の性質のどれを使ったか、根拠を明らかにしながら変形する。

$$S = \frac{1}{2} ah \quad \dots \textcircled{1}$$

両辺に2をかけると、 $2S = ah$

両辺を h でわると、 $\frac{2S}{h} = a$

$$a = \frac{2S}{h} \quad \dots \textcircled{2}$$

(3) 目的に応じて式を変形することや、変形した式を利用することのよさを実感させる。



底辺と高さが分かっている面積を求めたいときには①、②のどちらの式が使いやすいですか？また、面積と高さが分かっている底辺の長さを求めたいときにはどちらでしょうか？



同じ関係を表している式でも、目的によって式の形を変形すると便利だね。

○留意点

- ・方程式の指導の際にも「 x について解く」など、数学的な表現や数学の用語を意図的に使用し、具体的な場面で定着を図る。

既習事項の活用 ー反復練習と意味理解ー

○課題の見られた問題の概要と結果

2 次の(1)から(4)までの各問いに答えなさい。

(1) $3x \times (-4xy)$ を計算しなさい。

(中) A2 (1) 単項式どうしの乗法の計算ができる

(正答率 87.3 %

全国とのかい離 -3.7 ポイント)

繰り返し計算するなど、技能の確実な習得をさせることが大切です。その際には、単純に繰り返させるだけではなく、計算の意味の理解の指導をあわせて行うようにする必要があります。

○授業アイデア例

(1) この計算をするために必要な既習事項を思い出させ、見通しを立てる。あるいは既習事項を確認する。



今まで習ったどんなことを使えば計算できますか？

【既習事項の確認】

- ① $3x$ の意味 $3x = 3 \times x$
- ② 乗法の交換法則 $a \times b = b \times a$
- ③ 乗法の結合法則 $(a \times b) \times c = a \times (b \times c)$
- ④ 累乗の表し方 $x \times x = x^2$
- ⑤ 乗法の符号 $(+) \times (-) = (-)$

$$\begin{aligned}
 & 3x \times (-4xy) \\
 = & \underline{3} \times \underline{x} \times \underline{(-4)} \times \underline{x} \times \underline{y} \quad \dots \text{①を活用} \\
 = & 3 \times \underline{(-4)} \times \underline{x} \times x \times y \quad \dots \text{②を活用} \\
 = & \underline{-12} \times \underline{x^2} \times y \quad \dots \text{③④⑤を活用} \\
 = & -12x^2y \quad \dots \text{①を活用}
 \end{aligned}$$

今まで学習してきたことを活用すれば計算できるんですね！



(2) 確実な定着のために、繰り返し計算練習をさせる。

(3) 能率的に計算を処理するために、係数と文字に分けて考えるとよいことに気付かせる。



計算を速くするために、工夫できることはないかな？



係数は係数どうしで、文字は文字どうしでかけると計算が速くできると思います。

○留意点

- ・ 既習事項の確認の際には、生徒の実態に応じて学び直しの時間を設定する。既習事項をカードにして黒板に提示するなど個への配慮を十分に行う。また、本時のねらいを達成するために時間配分に留意する。

関連付けた指導の工夫 ー表・式・グラフー

○課題の見られた問題の概要と結果

(2) 下の表は、 y が x に反比例する関係を表したものです。 y を x の式で表しなさい。

x	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
y	...	-2	-3	-6		6	3	2	...

(中) A10 (2) 反比例の表から、変化や対応の特徴をとらえ x と y の関係を $y = \frac{a}{x}$ の式で表すことができる

(正答率 37.9 %

全国とのかい離 -3.2 ポイント)

表・式・グラフで表すときには、別々のものとして扱うのではなく、相互に関連付け、一体となって理解できるようにすることが大切です。

○授業アイデア例

(1) ともなって変わる2つの数量の変化や対応を観察し、その特徴を見い出させる。

対応表の横の関係で気付いたことはないかな？

x が2倍、3倍になると、 y はどうなっていくか調べよう。これって反比例じゃないかしら？

※反比例を表す式の形に、任意の x 、 y の組を代入して反比例の式を求める。

今度は、対応表の縦の関係で気付いたことはないかな？

かけると全部6になってるよ。ということは…
 $x \times y = 6$ ってことなの？

※ $x \times y = 6$ を式変形して、反比例の式を求める。

グラフをかくために点をとっていくとどうなる

点はまっすぐには並ばないね。ということは…
やっぱり比例じゃないみたい。

(2) 反比例の比例定数の意味について気付かせる。

反比例の比例定数は、反比例の式に x 、 y の値を代入して求められるけど、 x と y の値をかけても求められるんだね。

○留意点

- ・具体的な事象における二つの数量の関係の対応表を活用して、グラフや式に表したり、対応表から数量の変化の関係を見いだしたりするなど、表と式、グラフを関連付けた活動を一層充実させる。
- ・表から式を求めることは、数学的に考察したり、処理したりする際に有用な方法であることを気付かせるように指導する。
- ・比例と反比例の共通点、相違点を関連付けながら指導する。

(4) 研修の充実を図るために

学校質問紙調査結果をみると、模擬授業や事例研究など実践的な研修を行っている割合は、小学校ではやや増加しているものの全国値より低い。また、中学校ではやや減少しているものの全国値より高い傾向にある。今後はさらに研修の機会を拡充させるとともに、研修の質を高め、一層の指導改善につなげることが求められる。

それは硬直した形式的な研修体制では実現できない。学校一丸となった全体研修から自主的な研修へと、常に指導改善に向けて動き出しているような機能的な研修体制が求められる。

① 実践的な校内全体研修に、学校一丸となって取り組む

◇模擬授業を核とした授業研究の積み上げ

模擬授業では、研修者（教員）が児童生徒役、教師役を務め、実際の授業と同じように行い、問題点を確認し改善に生かす。（H20.3平成19年度「宮城県検証改善委員会報告書」参照）

・授業実践の事前検討会において模擬授業を取り入れ、明らかにしておきたいこと

- ア 教材の見方や子どもの実態のとらえ方などは、妥当であるか。
- イ 予想される児童生徒の反応を踏まえ、教師の働きかけはどうあるべきか。
- ウ 本時を成立させるためには、児童生徒にどんな力を育てておく必要があるか。

※前時までに指導すべきことを全職員（全教科、全学年）で共通理解して指導しておく。

・授業実践の事後検討会で、模擬授業と実際の授業を比較して明らかにしたいこと

- ア 模擬授業で吟味したはずだが、それでも見落とししたこと、ずれたことは何か。

※この見落としやずれの要因にこそ、次への改善のヒントが潜んでいる。

（全体討議、ワークショップなど、内容や時期等に応じて適切な事後検討会のもち方を工夫する。）

◇学力・学習状況調査の活用を図る研修

・H21全国学力・学習状況調査の問題の分析活用（全教員での共通理解が強みとなる）

- ア 自校の児童生徒の落ちている点について全教員で共通理解する。（関連 P3～P20）
- イ 誤答の多い問題を全教員で実際に解答し問題点を明らかにする。（関連 P32～P43）

※文科省「全国学力・学習状況調査問題解説」を全教員で読み合い、活用する。

・蓄積された資料等の自校化（自校に必要な部分を一丸となって重点的に活用する）

- ア 平成19年度、20年度宮城県検証改善委員会報告書を本書とともに活用する。
- イ 本書の指導改善のポイントを、自校の実態に合わせたものにして活用する。

※本書を参考に、自校に必要な「指導改善のポイント」を作成する。（関連 P32～P43）

② 校内全体研修から自主的な研修（グループ研修、自己研修等）へ

◇指導技術を磨く

・授業研究で明らかになったことを自分のものにし、日常の実践につなげる

- ア 参会者は、授業研究の成果と課題を自分の実践に照らして考え、今後に生かす。
- イ 授業者、参会者ともに自分自身が継続できることを焦点化し重点的に取り組む。

※模擬授業や日常の授業などを通して、実践を積みながら指導技術を磨く。

・指導技術の基本を徹底して身に付ける

- ア 発問、板書などについて、自分の指導技術の課題を明確におさえておく。
- イ 先輩、同僚の授業から「技」を見つけ、自分の「技」につくりかえていく。

※よいことを見極めて、それをまねることは、指導技術を磨く第一歩となる。

◇授業を見る目を鍛える

・「よい授業とはどんな授業なのか」ということについて、具体的なイメージをもつ

- ア 研究主題や自己の課題を踏まえ、「よい授業」を自分自身の言葉でおさえておく。
- イ 具体的な「よい授業」のイメージに沿って日常の授業を構築し、自己評価を積む。

・授業検討会等で、様々な授業の見方の共通点、相違点をとらえる

- ア 先輩や同僚の授業の見方と自分の授業の見方の共通点、相違点を整理する。
- イ 共通点、相違点とも、なぜそうなったのか自己分析し授業の見方を広げ深める。

◇組織としての高め合う教師集団の中で、日常的に悩みや喜びなどを共有する

- ア 校長、教頭、教諭、講師、養護教諭など、それぞれの立場から児童生徒を見つめ学力向上へのアプローチを話し合う。
- イ 立場を越えて、一人の教員として「児童生徒を育てる」という観点で語り合う。

※教職経験に応じた校外研修等の成果を生かしながら、校内研修の充実を図る。

※研修会等の成果を裏付けるヒントが、日常の「炉辺談話」の中にかくさんある。

2 児童生徒の学習習慣の形成に向けた取組

(1) 学校一丸となって取り組みたいこと

① 9年間で目指す子どもの姿の設定と共有

学校として目指す「読む姿」「話す姿」「聞く姿」「書く姿」を共通理解のもとに指導することで授業そのものの質が高まり、大きな学習効果が期待できる。また、9年間を見通した指導により、小学校から中学校へのスムーズな移行が可能になる。

目指す子どもの姿を設定するための留意点

- ◇学年の系統性をもった目指す姿の設定 → 中学校3年生での目指す姿
- ◇中学校区の職員の共通理解 → 小学校、中学校の連携した取組
- ◇学校全職員が「いつでも・どこでも」指導できる体制づくり

② 学習ルールの系統性の確認と一貫した指導

学習ルールは、各教科の授業はもちろん教育活動すべてにおいて全職員で取り組むことで効果が上がってくる。学習ルールは毎日の授業を支えるものであるため、常に、子どもの様子について、**把握**→**指導**→**評価**が大切になる。

(2) 自主的な学習へと深め広げさせるために

① 基礎的・基本的な知識や技能の習得を促進

習得した知識・新しい技能を学校や家庭での繰り返し練習、継続練習で確実に！

② 日常生活の中で学んだ知識を活用

習得した知識・新しい技能を日常生活の中で活用していくことで、子どもは活用できた喜びを味わい、そして新たな興味・関心をもつきっかけとなる。

③ 学習サイクルの確立

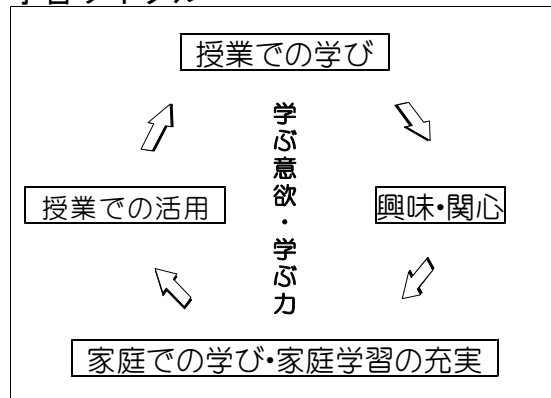
学習サイクルが確立されることで子どもは学ぶ意味を理解し、学習意欲を喚起していく。こうした学習習慣の形成が学ぶ意義を実感させる上で大切になる。

サイクルを確立させるための留意点

- ◇家庭学習の成果が授業で活用されたり、家庭学習で高めた力が授業で発揮されたりするようにし、子どもの意欲を高める。(単元の見通し → 教材研究)
- ◇課題内容を工夫し、適切に評価をする。
- ◇自主的な学習への取組について、9年間で目指す姿を明確にして指導する。

- <具体例> ◇朝自習等の活用
◇授業導入段階での取り入れ

学習サイクル



(3) 学校、家庭、地域が一体となる

① 小中連携とともに、近隣校等の交流を深め、学力向上への取組を地域に開かれたものにする

◇開かれた研修会の実施

- ア 積極的に外部講師の招聘を図るなど、新たな視点から研修の活性化を目指すとともに、他校との情報交換を深める。(学力向上成果普及教員の積極的な活用など)
- イ 必要に応じ、小中合同の授業研究会等を開催し、地域で学力向上について話し合う機会を設ける。(必要に応じた近隣校教員、地域住民の参加など)
- ウ 必要に応じ、小中の教員によるティームティーチングや少人数指導など、組織的な取組の可能性を探る。(必要に応じた市町村教育委員会の指導助言など)

◇家庭学習の進め方についての共通理解

- ア 家庭学習の仕方について小中で情報交換を深め、家庭と連携を図る。
- イ 授業と連動した家庭学習の課題を工夫し自主的な予習、復習の習慣につなげる。

② 家庭と学校が手を携えて、根気強く取り組む

◇家庭学習の質の向上と、家庭学習の習慣の形成

- ・吟味された問題を活用し、何度も繰り返して取り組ませる
 - ア 全国学力・学習状況調査の問題を活用する。(みやぎ単元問題ライブラリー等)
 - イ 誤答例を示し、親子等で考える機会の設定を促す。(学校HP, 学級だより等)
- ・読書の推進を図る
 - ア 読書の質と量を充実させる。(推薦図書の紹介, 目標冊数のめやすの設定など)

◇望ましい生活習慣の育成

- ア 「はやね・はやおき・あさごはん」運動の一層の推進を図る。
- イ 学校を中心として、家庭や地域と連携した心の教育を充実させる。

※感動する心、向上心、根気強さなどを育て、学ぶ意義や喜びを感じ取らせる。

3 教育環境基盤の充実に向けた取組

これまで提案してきた改善のポイントをおさえた指導を行うためには、学習環境基盤の充実が不可欠である。宮城県教育委員会では、きめ細やかな教育活動によって学力向上を図るために、教育環境基盤の充実に向けた施策に取り組んでいる。(詳細は第3章) 施策に直接かかわる学校はもちろん、すべての学校でそれらの施策の趣旨を十分理解するとともに、その根幹にある学力向上への考え方にに基づき、各学校の実態を踏まえた組織的な取組を行っていく必要がある。

多くの学校では、学級を単位とし一斉授業が行われている。しかし児童生徒には個人差がある。教科や内容によっては一斉の同一方法による指導だけでは基礎・基本の確実な定着を図ることは容易でないこともある。そこで、個に応じたきめ細かい指導方法として、習熟度別少人数指導やティームティーチングなど、学校の実態を踏まえた工夫が求められる。

(1) 効果的な習熟度別少人数指導の工夫

①ねらいを明確にして少人数学級(グループ)の編制をする

<子どもの実態>

- ・学習速度の違い ・理解度や習熟度の違い
- ・問題解決やコミュニケーション力の違い
- ・学習の仕方の違い ・興味・関心の違い 等



<習熟度別小人数学級>

- ・習熟度に応じて学級(グループ)編制をする。習熟度に合わせて、ねらいや学習過程を吟味する。

習熟度別少人数指導のよさ

- ・個の学習状況に応じたきめ細かい指導ができる
- ・児童生徒のつまずきへの対応が早く、学習意欲の持続につながる
- ・ねらいに即した発問の吟味をすることによって、学び合いの質が高まる

習熟度別少人数指導を行う際の留意点

- ・子ども自らが自分の理解の度合いを把握できること(評価問題の活用)
- ・子ども自らが学習集団を選択できること(ガイダンス、保護者の理解)
- ・考える楽しさ、分かる喜びを味わわせる(学習内容の工夫)

②教材研究(系統性、単元構成)と教師間の情報交換

単元の始めにしっかり打合せを行う

毎時間の授業前の打合せは当然必要であるが、毎時間じっくり時間をかけることが困難なため、単元の始めに十分に打合せを行う。その際、教材の系統性を十分に把握し、子どもの実態を踏まえながら、どのように習熟度に応じた単元構成をしていくかという点について、しっかりと共通理解を図る。

指導方法の情報交換で、より個に応じた指導を展開する

教師間の打合せ内容として ①指導計画 ②教材研究 ③学習展開 ④評価方法 ⑤進捗調整等について協議していくことは、個に応じた指導方法を展開し子どもに分かる授業を提供していくときに大変重要になる。

中心となる教師を確認して運営する

少人数指導では、教師のチームワークがとても大切になる。指導にかかわる教師の中からチーフを決め、学期ごとや単元ごとなど実態に合わせて計画・立案することで効率的な運営が可能になる。

(2) 学校の特徴を生かし、児童生徒にとってよりよい協力的な指導のあり方を探る

- ①学校規模や児童生徒の実態等に応じたティームティーチングの実施
- ②小学校教員の得意分野等を生かした組織的な交換授業や一部教科担任制等
- ③その他(教員の構成、児童生徒の実態等に応じた指導体制の工夫など)

(H14. 3 「少人数指導の手引き」、 H21. 3 平成20年度「宮城県検証改善委員会報告書」参照)

第3章

学力向上に向けた施策の概要

第3章 学力向上に向けた施策の概要

1 教員の教科指導力の向上に向けた施策

(1) 学力向上サポートプログラム事業

① 趣旨

宮城県教育委員会は、学力調査の結果等を踏まえ、学力向上のための学校改善に取り組む小・中学校を、指導主事が継続的、個別的に直接支援し、教員の教科指導力の向上と児童生徒の学力向上を図る。

② 事業概要

ア 学力向上に向けて取り組む「学力向上支援校」（以下「支援校」という。）を選定する。
イ 指導主事等が支援校を訪問し、学力向上に向けた学校課題の調査分析及び改善策の提言、指導法改善への指導助言等を行い、学校改善を支援する。

③ 平成22年度の事業計画及び内容

ア 小・中学校合計120校を指定する。
イ 教科は、小学校が国語・算数、中学校が国語・数学とする。各校1教科に絞る。
ウ 各支援校に対して年間3回程度訪問する。
第1回訪問5月～7月中旬 第2回訪問7月下旬～10月 第3回訪問11月～1月
エ 義務教育課、教育事務所・地域事務所、教育研修センター指導主事から各支援校に派遣する。
オ 平成21年度までの支援校に対し、市町村教育委員会の要請により学校を訪問し、指導助言を行う。

(2) 学力向上成果普及マンパワー活用事業

① 趣旨

優れた教育実践者や研究指定校教員、研修経験者、教科等指導員等学力向上に成果を上げている教員を、指導助言の必要な学校及び教育委員会等に派遣し、校内研修等の充実を図るよう支援し、教員の指導力向上に資する。

② 事業概要

ア 教科の指導に優れた実績を有する教員や研究指定校教員、研修経験者、教科等指導員等を学力向上成果普及教員として名簿に登載する。
イ 市町村教育委員会及び小・中学校の要請に基づき、学力向上に係る研修会、講演会等に、学力向上成果普及教員を派遣する。
ウ 学力向上成果普及教員は、学習状況調査から明らかになった課題を中心に模擬授業（授業公開）を行うなど、具体的な授業改善に結び付く指導助言を行う。

③ 平成22年度の事業計画及び内容

ア 学力向上サポートプログラム事業との連携を強化し、学校訪問の中で学力向上成果普及教員による国語や、算数・数学の模擬授業等を実施し、授業改善に結び付く具体的な指導助言を行うことにより、支援校における教員の教科指導力の向上に資する。
イ 対象となる講演会、学習会、研修会等
○ 学力向上サポートプログラム事業での学校訪問
○ 市町村教育委員会、学校、PTAが主催する講演会や学習会
○ 各学校の校内研修会や授業研究会における模擬授業（授業公開）と講話
○ 近隣の学校が共同で行う研修会
○ 学力向上をテーマとした各地域の校長会、教頭会、教務主任会、研究主任会等

(3) 市町村教育委員会学力向上パワーアップ支援事業

① 趣 旨

本県の課題である学力向上に主体的かつ積極的に意欲をもって取り組もうとする市町村教育委員会に対して支援を行い、その取組の一層の活性化と促進を図り、県と市町村とが連携して学力向上に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上を図る。

② 事業概要

ア 実施教育委員会の選定

県教育委員会は、実施を希望する市町村教育委員会（継続実施を含む）が提出する学力向上に向けた事業計画を審査して予算の範囲内で実施教育委員会を選定する。

イ 経 費

- 県教育委員会は、各年度ごとに予算の範囲内で事業に必要な経費を補助する。
- 補助額は、1市町村教育委員会あたり単年度500千円を上限とし、2ヵ年を限度とする。補助率は1/2とする。（事業費1,000千円×1/2[補助率]）
- 対象となる経費は、学力向上に向けた取組の経費とする。

③ 平成22年度の事業計画及び内容

ア 実施教育委員会

平成21年度からの継続実施を希望する市町村教育委員会に加え、新規に実施を希望する市町村教育委員会を募集し実施教育委員会を選定する。

イ 事業の内容

- 継続及び新規に実施する教育委員会に対して事業に必要な経費を補助する。
- 県教育委員会の指導主事が実施教育委員会を訪問し、学力向上の取組について情報交換等を行う。
- 担当者会を開催し、情報交換や県教育委員会との連携等についての意見交換を行うとともに、実施教育委員会以外の市町村へ成果等の普及を図る。

(4) 基礎学カステップアップ支援事業（新規事業）

① 趣 旨

小学校における漢字や計算の指導など基本的な指導について手引書を作成し、それを各小学校で活用することにより、教員の指導力の向上を図るとともに、児童の基礎学力の向上を図る。

② 事業の計画

- 平成22年度・・・小学校「漢字指導の手引き」の作成
- 平成23年度・・・小学校「計算指導の手引き」の作成

③ 平成22年度の事業内容

ア 「漢字指導の手引き」作成委員会の設置

各教育事務所・地域事務所の指導主事及び漢字指導に実績のある教員により作成委員会を設置し、「漢字指導の手引き」の作成に当たる。

イ 「漢字指導の手引き」の作成

- 筆順を効果的に身に付けさせる指導法や難易度の高い漢字を簡単に覚えさせる指導法など、漢字指導の様々な裏技をまとめる。
- 各学年ごとに作成し、義務教育課のホームページに掲載する。

ウ 「漢字指導の手引き」の活用

- 授業や朝の活動の時間などに、手引書に基づいて児童に楽しく漢字を習得させる時間を設定し積極的に活用する。

2 児童生徒の学習習慣の形成に向けた施策

(1) 地域学習支援センター設置事業

① 趣 旨

夏季休業期間に地域学習支援センターを県立高校に設置し、児童生徒の自主的な学習を支援するとともに、保護者等からの学習相談に応じることによって、児童生徒の家庭学習の習慣形成と家庭の教育力の充実を図る。

② 事業概要

- ア すべての教育事務所管内の県立高校12校に地域学習支援センターを設置する。
- イ 学習支援ボランティア（学生）が児童生徒の自主的な学習習慣の形成を支援する。
- ウ 学習相談員（退職教員等）が保護者等の学習相談に応じ、家庭の教育力の向上を支援する。
- エ 地域学習支援センター連絡協議会を各地域で開催し、事業の円滑な推進と充実を図る。

③ 平成22年度の事業計画及び内容

ア 設置校

白石高、柴田高、名取高、塩釜高、古川黎明高、築館高、佐沼高、石巻工業高、東松島高、気仙沼高、涌谷高、迫桜高（新設置校：涌谷高、再設置校：迫桜高）

イ 期 間

夏季休業中5～6日間程度とする。日程は設置校と調整する。

(2) みやぎ単元問題ライブラリー整備事業

① 趣 旨

全国学力調査結果等から明らかになった本県児童生徒の課題を踏まえ、国語、算数・数学における問題を作成し、各学校が活用することにより、児童生徒の学力向上を図る。

② 事業概要

ア 対象学年 小学校第1～6学年、中学校第1～3学年

イ 教 科 国語、算数・数学

ウ 問題の作成

- 難易度に応じ、国語は2段階（ステップ1、ステップ2）、算数・数学は単元ごとに3段階（ホップ、ステップ、ジャンプ）に分けて作成した。
- 児童の興味・関心を高めるため、地域や身近な生活に関する素材を含む問題や思考力等を要するスペシャル問題、複合問題（数学）を作成した。

エ 活用の仕方について

- 「みやぎ単元問題ライブラリー」は、各学校が、ダウンロードして活用する。
- 活用については、以下のことが想定される。
 - ・ 授業や朝自習・ドリルタイム等において、習熟を図るための活用
 - ・ 単元終了後、学期末や学年末において、学習の定着を把握するための活用
 - ・ 単元を学習する前に、既習事項の定着状況等を把握するための活用
 - ・ 家庭学習や長期休業中の課題としての活用

③ 平成22年度の事業内容

ア 内 容

- 児童生徒が自ら活用できるようにするため、解答のポイント等を掲載する。
- 家庭学習で活用できるようにするため、指定アドレスを各学校から家庭に知らせる。

イ 教科及び対象学年

- ・ 小学校算数 全学年
- ・ 中学校数学 全学年

3 教育環境基盤の充実に向けた施策

(1) 学級編制弾力化事業

① 趣旨

国の標準で40人とされている学級編制を、県内一円で弾力的運用を進めることにより、児童生徒一人一人に応じたきめ細かな教育活動の一層の推進を図る。

② 事業概要

ア 事業内容

小・中学校の導入期における学習習慣や生活習慣の基礎形成を図るために、県内すべての小学校1・2年生及び中学校1年生で35人を超える学級の解消を図る。

なお、小学校3～6年生及び中学校2・3年生では、少人数指導で対応する。

イ 配置基準

- 小学校1・2年生の学級編制弾力化による学級増に常勤講師を配置する。
- 中学校1年生の学級編制弾力化による学級増に対応する教員は、学級編制弾力化後の学級数に見合った教員を教職員定数配当基準により配置する。

(2) 新学習指導要領推進事業（新規事業）

① 趣旨

新学習指導要領の先行実施により授業時数が増加する小学校の算数・理科において、非常勤講師を活用し、授業時数増に対応する。

② 事業概要

ア 事業内容

移行期間における新学習指導要領の先行実施により、授業時数が増加する小学校の算数・理科において、非常勤講師を活用し、少人数指導等を実施することで授業時数増に対応するとともに、児童の学力向上を図る。

イ 配置基準

12学級以上の小学校を対象として、県教育委員会が必要と認める学校に週20時間以内で非常勤講師を配置する。

ウ 配置校数及び非常勤講師数

小学校 21校程度 21人程度

(3) 小・中学校外部人材活用事業（少人数指導）

① 趣旨

小・中学校において、教員が子どもと向き合う時間を拡充し、個に応じたきめ細かな指導を行い、児童生徒の学力向上を図るため、非常勤講師を活用し、習熟度別などの少人数指導を充実させる。

② 事業概要

ア 事業内容

- 小学5・6年生において、主要4教科（国語・算数・理科・社会）の習熟度別少人数指導等を実施し、積極的に学力向上を図る学校に非常勤講師を配置する。
- 中学2・3年生において、主要5教科（国語・数学・理科・社会・英語）の習熟度別少人数指導等を実施し、積極的に学力向上を図る学校に非常勤講師を配置する。

イ 配置校数及び非常勤講師数

小学校 12校 12人配置 中学校 4校 4人配置

宮城県検証改善委員会について

宮城県検証改善委員会では、全国学力・学習状況調査の結果等を活用・分析し、教育委員会や学校における効果的な取組や課題を明らかにし、改善につなげるため協議を重ねてきました。その結果、学校改善に活用できる資料として作成したものが本報告書です。

本報告書は、教育委員会や学校関係者をはじめ、みやぎの子どもたちの学力向上を願うすべての方に読んでいただきたいという思いをもって作成しました。

特に学校においては、本報告書内容を学校や地域の実態に合ったものにアレンジしていただきながら、子どもたちの学力向上のために積極的に活用されることを願っています。

学校における活用例～こんな活用はどうでしょうか～

※必要なページをコピーして活用できます。

(義務教育課HPからもダウンロードができます。)

本報告書は活用しやすいように、内容ごとに1, 2ページぐらいの区切りでまとまるように編集しました。必要などきに、必要な部分を取り出して、ぜひ日常のご活用ください。

【主に、校長先生、教頭先生へ】

○職員会議や打ち合わせ等での活用

- ・自身の豊富な教育経験を例に挙げ、本報告書内容について、教職員へ具体的なアドバイスをするなど

○学校だより等への引用、PTA研修会等での活用

- ・本報告書の内容を引用しながら、学校の特色ある取組を保護者や地域へ発信するなど

【主に、教務主任の先生、研修を担当する先生へ】

○各種会議等での参考資料として活用

- ・研修会、授業研究会、指導計画作成会議等において、報告書内容を参考に協議の観点を設定するなど

○研修だより等への活用

- ・本報告書の内容にかかわって校内外の優れた実践例などを掲載し、校内の教職員で共有するなど

【学級担任の先生、教科担任の先生、指導にかかわるすべての方へ】

○授業づくり、学級づくりなどへの活用

- ・学級経営案や教科指導方針の作成や、授業づくりのポイントをつかむ参考資料として活用するなど
- ・子どもの実態を踏まえて、学習習慣の形成に向けて共通理解したい事項を確かめるなど

《平成21年度宮城県検証改善委員会》

回	月 日	主 な 活 動 内 容
1	7月 8日	・本委員会の方針、計画等の決定
2	9月17日	・平成21年度全国学力学習状況調査結果の分析、課題等の整理
3	10月29日	・課題を踏まえた指導改善のポイントの吟味、提言内容の協議 ・報告書の構成内容の決定
4	11月26日	・報告書内容の吟味、表現の仕方等の検討
5	12月16日	・報告書内容、表現の吟味、校正

《平成21年度宮城県検証改善委員》

平 真木夫 (宮城教育大学 准教授)
 稲垣 忠 (東北学院大学 准教授)
 佐藤 俊隆 (蔵王町立円田中学校長)
 佐々木博明 (登米市立豊里小学校 教頭)
 高橋 徳子 (七ヶ浜町立亦楽小学校 教諭)
 及川 浩市 (岩沼市立岩沼小学校 教諭)
 竹田 幸正 (義務教育課長)
 桂島 晃 (義務教育課 副参事)
 秋葉 徹 (教育研修センター 主幹)
 平塚 隆 (大河原教育事務所 主幹)
 小野寺貴子 (仙台教育事務所 主幹)
 野村 清正 (南三陸教育事務所 主幹)
 丸山千佳子 (義務教育課 課長補佐)
 岩間 孝一 (義務教育課 課長補佐)
 高橋 義孝 (義務教育課 課長補佐)
 梅津可奈子 (義務教育課 課長補佐)
 大村 進 (義務教育課 課長補佐)

宮城県検証改善委員会報告書

～みやぎの子どもたちが確かな学力を身に付けるために～

発行年月	平成22年3月
編集発行	宮城県教育庁義務教育課
住 所	仙台市青葉区本町3-8-1
電 話	022-211-3643